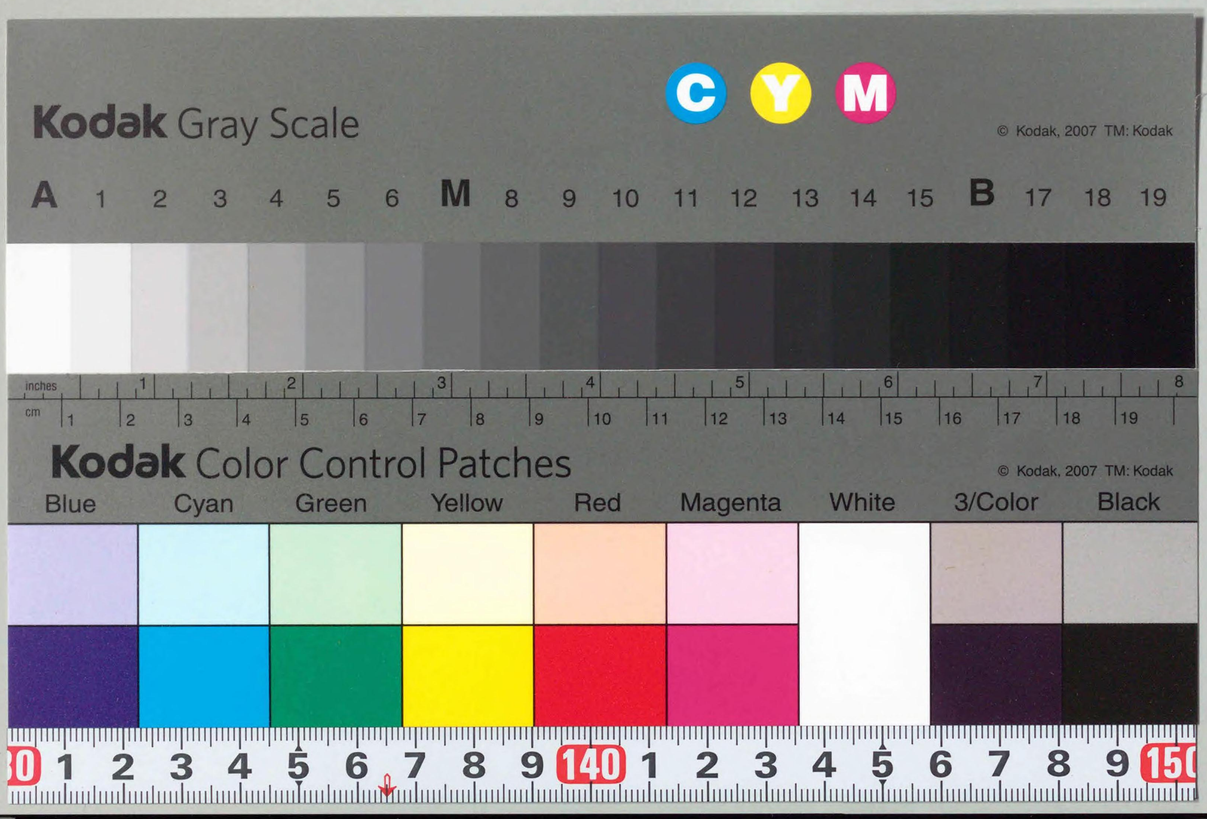

C2-03
1200701320242

ニ七五61

大正八年十一月

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約竝議定書

附 波蘭國ニ關スル條約

外務省

331
139
口

國會圖書館
44.6.20

795463

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約

目次

前文……一
第一編　國際聯盟規約
國際聯盟規約(第一條乃至第二十六條)……一一
附屬書……二六
第二編　獨逸國ノ境界
獨逸國ノ境界(第二十七條乃至第三十條)……三一
第三編　歐洲政治條項
第一款　白耳義國(第三十一條乃至第三十九條)……三九
第二款　盧森堡國(第四十條乃至第四十一條)……四三
第三款　萊因河左岸(第四十二條乃至第四十四條)……四四
第四款　「ザール」河流域(第四十五條乃至第五十條)……四五
附屬書……四八

第一章　鑛山ノ讓渡及採掘（一乃至十五）……四八
第二章　「ザール」河流域地方ノ施政（十六乃至三十三）……五四
第三章　人民一般投票（三十四乃至四十）……六〇
第五款　「アルザス、ロレーヌ」（第五十一條乃至第七十九條）……六四
附屬書（一乃至四）……七七
第六款　墺地利國（第八十條）……八一
第七款　「チェッコ、スロヴァキア」國（第八十一條乃至第八十六條）……八二
第八款　波蘭國（第八十七條乃至第九十三條）……八六
附屬書（一乃至六）……八九
第九款　東普魯西（第九十四條乃至第九十八條）……九七
第十款　「メーメル」（第九十九條）……一〇二
第十一款　「ダンチッヒ」自由市（第百條乃至第百八條）……一〇三
第十二款　「シュレスウィヒ」（第百九條乃至第百十四條）……一〇八
第十三款　「ヘリゴランド」（第百十五條）……一一五
第十四款　露西亞及露西亞諸國（第百十六條及第百十七條）……一一六

第四編　獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益

（第百十八條）……一一七

第一款　獨逸國殖民地（第百十九條乃至第百二十七條）……一一八
第二款　支那國（第百二十八條乃至第百三十四條）……一二一
第三款　暹羅國（第百三十五條乃至第百三十七條）……一二四
第四款　「リベリア」國（第百三十八條乃至第百四十條）……一二五
第五款　摩洛哥國（第百四十一條乃至第百四十六條）……一二六
第六款　埃及國（第百四十七條乃至第百五十四條）……一二九
第七款　土耳其國及勃爾牙利國（第百五十五條）……一三二
第八款　山東（第百五十六條乃至第百五十八條）……一三三

第五編　陸軍海軍及航空條項

第一款　陸軍條項……一三五
第一章　獨逸國陸軍ノ兵力及幹部（第百五十九條乃至第百六十三條）……一三五
第二章　兵器、彈藥及材料（第百六十四條乃至第百七十二條）……一三八
第三章　募兵及軍事教育（第百七十三條乃至第百七十九條）……一四二
第四章　築城（第百八十條）……一四五
第一附屬表　軍團司令部、歩兵師團及騎兵師團ノ編制……一四六
第二附屬表　歩兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ

對スル兵器最大限數表……一四八
第三附屬表　承認最大貯藏量表……一四九
第二款　海軍條項(第百八十一條乃至第百九十七條)……一五〇
第三款　航空條項(第百九十八條乃至第二百二條)……一五九
第四款　同盟國國際監督委員會(第二百三條乃至第二百十條)……一六二
第五款　一般規定(第二百十一條乃至第二百十三條)……一六六

第六編　俘虜及墳墓

第一款　俘虜(第二百十四條乃至第二百二十四條)……一六七
第二款　墳墓(第二百二十五條及第二百二十六條)……一七〇

第七編　制裁

制裁(第二百二十七條乃至第二百三十條)……一七一

第八編　賠償

第一款　一般規定(第二百三十一條乃至第二百四十四條)……一七三
第一附屬書……一七九
第二附屬書(一乃至二十三)……一八一
第三附屬書(一乃至九)……一九一
第四附屬書(一乃至七)……一九五
第五附屬書(一乃至十)……一九九
第六附屬書(一乃至五)……二〇三
第七附屬書……二〇五
第二款　特別規定(第二百四十五條乃至第二百四十七條)……二〇七

第九編　財政條項

財政條項(第二百四十八條乃至第二百六十三條)……二〇九

第十編　經濟條項

第一款　通商關係……二一九
第一章　稅關規則、稅金及制限(第二百六十四條乃至第二百七十九條)……二一九
第二章　海運(第二百七十一條乃至第二百七十三條)……二三三
第三章　不正競爭(第二百七十四條及第二百七十五條)……二三四
第四章　同盟及聯合國ノ國民ノ待遇(第二百七十六條乃至第二百七十九條)……二三五
第五章　一般規定(第二百八十條及第二百八十一條)……二三七

第二款　條　約(第二百八十二條乃至第二百九十五條)……二二九
第三款　金錢債務(第二百九十六條)……二三八
附　屬　書(一乃至二十五)……二四一
第四款　財産、權利及利益(第二百九十七條及第二百九十八條)……二五一
附　屬　書(一乃至十五)……二五六
第五款　契約、時效、判決(第二百九十九條乃至第三百三條)……二六五
附　屬　書
第一　一般規定(一乃至三)……二七〇
第二　特種ノ契約ニ關スル規定(四乃至七)……二七一
第三　保險契約(八乃至二十四)……二七三
第六款　混合仲裁裁判所(第三百四條及第三百五條)……二八一
附　屬　書(一乃至九)……二八三
第七款　工業所有權(第三百六條乃至第三百十一條)……二八六
第八款　讓渡地域內ニ於ケル社會保險及官營保險(第三百十二條)……二九四

第十一編　航　空

航　空(第三百十三條乃至第三百二十條)……二九七

第十二編　港、水路及鐵道

第一款　總　則(第三百二十一條乃至第三百二十六條)……三〇一
第二款　航　行……三〇五
第一章　航行ノ自由(第三百二十七條)……三〇五
第二章　港內自由地域(第三百二十八條乃至第三百三十條)……三〇六
第三章　「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河(「ルス」河ヲ「メーメル」河ヲ「ニーメン」河ト稱ス)及「ダニューヴ」河ニ關スル條項……三〇八
一　一般條項(第三百三十一條乃至第三百三十九條)……三〇八
二　「エルベ」河、「オーデル」河及「ニーメン」河(「ルス」河ヲ「メーメル」河ト「ニーメン」河ト稱ス)ニ關スル特別條項(第三百四十條乃至第三百四十五條)……三一三
三　「ダニューブ」河ニ關スル特別條項(第三百四十六條乃至第三百五十三條)……三一六
第四章　萊因河及「モーゼル」河ニ關スル條項(第三百五十四條乃至第三百六十二條)……三一八
第五章　「ナエッコ、スロヴァキア」國ノ北部諸港使用ニ關スル

條項(第三百六十三條及第三百六十四條)……三二六
第三款 鐵道……三二七
第一章 國際運送ニ關スル條項(第三百六十五條乃至第三百六十九條)……三二七
第二章 車輛(第三百七十條)……三二九
第三章 鐵道線路ノ讓渡(第三百七十一條)……三三〇
第四章 特定ノ鐵道線ニ關スル條項(第三百七十二條乃至第三百七十四條)……三三一
第五章 經過規定(第三百七十五條)……三三二
第四款 紛爭及永久條項ノ改正(第三百七十六條乃至第三百七十八條)……三三四
第五款 特別規定(第三百七十九條)……三三五
第六款 「キール」運河ニ關スル條項(第三百八十條乃至第三百八十六條)……三三六
第十三編 勞働……三三九
第一款 勞働機關……三三九
第一章 機關(第三百八十七條乃至第三百九十九條)……三四〇
第二章 手續(第四百條乃至第四百二十條)……三四五
第三章 一般規定(第四百二十一條乃至第四百二十三條)……三五四
第四章 經過規定(第四百二十四條乃至第四百二十六條)……三五五
附屬書……三五六
第二款 一般原則(第四百二十七條)……三五八
第十四編 保障
第一款 西歐羅巴(第四百二十八條乃至第四百三十二條)……三六一
第二款 東歐羅巴(第四百三十三條)……三六四
第十五編 雜則
雜則(第四百三十四條乃至第四百四十條)……三六五
附屬書(第一及第二)……三六六
末文……三七三

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國

右諸國ヲ以テ本條約ニ謂フ主タル同盟及聯合國トス

白耳義國、「ボリヴィア」國、伯剌西爾國、支那國、玖馬國、「エクアドル」國、希臘國、「グァテマラ」國、「ハイチ」國、「ヘヂァーズ」國、「ホンヂュラス」國、「リベリア」國、「ニカラグァ」國、巴奈馬國、祕露國、波蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國、暹羅國、「チェッコ、スロヴァキア」國及「ウルグァイ」國

右諸國ハ前記ノ主タル諸國ト共ニ同盟及聯合國ヲ構成ス

以上ヲ一方トシ

獨逸國

之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ主タル同盟及聯合國カ獨逸帝國政府ノ請求ニ基キ獨逸國ト平和條約ヲ締結セムカ爲千九百十八年十一月十一日獨逸國ニ對シ休戰ヲ許諾シタルコトヲ思ヒ

且同盟及聯合國ハ其ノ相次キテ直接又ハ間接ニ參加スルニ至リタル戰爭卽チ千九百十四年七月二十八日塞爾比亞國ニ對スル墺地利洪牙利國ノ宣戰、千九百十四年八月一日露西亞國ニ對スル獨逸國ノ宣戰竝白耳義國侵入ニ依リテ開始セラレタル戰爭ニ代フルニ鞏固公正且恒久ノ平和ヲ以テセムコトヲ均シク希望シ之カ爲締約國ハ左ノ如ク代表セラレ

亞米利加合衆國大統領

亞米利加合衆國大統領「ウードロー、ウィルソン」
自己ノ名ニ於テ且自己ノ固有ノ權限ニ基キ行動ス
國務卿「ロバート、ランシング」
前伊太利國及佛蘭西國駐劄亞米利加合衆國特命全權大使「ヘンリー、ホワイト」
「エドワード、エム、ハウス」
最高軍事會議亞米利加合衆國軍事代表者陸軍大將「タスカー、エッチ、ブリス」

大不列顚愛蘭聯合王國及大不列顚海外領土皇帝印度皇帝陛下

總理大臣國庫尙書國會議員「デーヴィッド、ロイド、ジョージ」
國璽尙書國會議員「アンドリュー、ボナ、ロー」
殖民大臣子爵「ミルナー」
外務大臣國會議員「アーサー、ジェームス、バルフォア」
無任所大臣國會議員「ジョージ、ニコル、バーンス」

加奈陀

司法大臣「チャールス、ジョーゼフ、ドハティー」
關稅大臣「アーサー、リュイス、シフトン」

濠太利聯邦

總理大臣檢事總長「ウィリアム、モーリス、ヒューズ」
海軍大臣「サー、ジョーゼフ、クック」

南阿弗利加聯邦

總理大臣土民事務大臣陸軍大將「ルイ、ボータ」
國防大臣陸軍中將「ジァン、クリスチアーン、スマッツ」

新西蘭

總理大臣勞働大臣「ウィリアム、ファーガソン、マッセー」

印度

印度大臣國會議員「エドウィン、サミュエル、モンタギュー」

侍從武官陸軍少將「ビカネール」王「サー、ガンガ、シン」殿下

佛蘭西共和國大統領

內閣議長陸軍大臣「ジョルジ、クレマンソー」

外務大臣「ステファン、ピション」

大藏大臣「ルイ、リュシアン、クロッツ」

佛米軍事辨務長官「アンドレ、タルデュー」

特命全權大使「ジュール、カムボン」

伊太利國皇帝陛下

衆議院議員男爵「エセ、ソンニノ」

英國駐劄伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「ジー、イムペリアリ」

衆議院議員「エセ、クレスピ」

日本國皇帝陛下

前內閣總理大臣侯爵西園寺公望

臨時外交調查委員會委員前外務大臣男爵牧野伸顯

英國駐劄日本國特命全權大使子爵珍田捨巳

佛蘭西國駐劄日本國特命全權大使松井慶四郎

伊太利國駐劄日本國特命全權大使伊集院彥吉

白耳義國皇帝陛下

外務大臣國務大臣「ポール、イーマンス」

特命全權公使國務大臣「ジュール、ヴァン、デン、ヌーヴェル」

司法大臣國務大臣「エミル、ヴァンデルヴェルド」

「ボリヴィア」共和國大統領

佛蘭西國駐劄「ボリヴィア」共和國特命全權公使「イスマエル、モンテス」

伯剌西爾共和國大統領

前大藏大臣衆議院議員「ホアオ、バンディア、カロジェラス」

衆議院議員「ラウル、フェルナンデス」

「リオ、デ、ジァネイロ」國際法教授「ロドリゴ、オクタヴィオ、デ、エル、メネゼス」

支那共和國大總統
外交總長陸徵祥
前農商總長王正廷

玖馬共和國大統領
「ハヴァナ」大學法學部長玖馬國際法學會會長「アントニオ、サンチェス、デ、ブスタマンテ」

「エクアドル」共和國大統領
佛蘭西國駐劄「エクアドル」共和國特命全權公使「エンリケ、ドルン、イ、デ、アルスーア」

希臘國皇帝陛下
內閣議長「エレフテリオス、カパ、ヴェニゼロス」
外務大臣「ニコラス、ポリティス」

「グァテマラ」共和國大統領
亞米利加合衆國駐劄「グァテマラ」共和國特命全權公使巴里特派特命全權公使前土木大臣前文部大臣「ホアキン、メンデス」

「ハイチ」共和國大統領
佛蘭西國駐劄「ハイチ」共和國特命全權公使「テルテュリアン、ギルボー」

「ヘヂァーズ」國皇帝陛下
「ルステム、ヘイダール」
「アブダル、ハディ、アウーニ」

「ホンヂュラス」共和國大統領
華盛頓特派使節特命全權公使前「ホンヂュラス」共和國大統領「ドクトル、ポリカルポ、ボニーヤ」

「リベリア」共和國大統領
國務大臣「ヤールス、ダンバー、バージェス、キング」

「ニカラグァ」共和國大統領

衆議院議長「サルヴァドル、ナァモーロ」

巴奈馬共和國大統領

西班牙國駐劄巴奈馬共和國特命全權公使「アントニオ、ブルゴス」

祕露共和國大統領

佛蘭西國駐劄祕露共和國特命全權公使「カルロス、ヘー、カンダモ」

波蘭共和國大統領

内閣議長外務大臣「イグナス、ジェー、パデレフスキー」

波蘭國民委員會議長「ロマン、ドゥモフスキー」

葡萄牙共和國大統領

前内閣議長「ドクトル、アフォンソ、アウグスト、ダ、コスター」

前外務大臣「ドクトル、アウグスト、ルイス、ヴィエイラ、ソアレス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

内閣議長外務大臣「イオン、ヨタ、カパ、ブラティアノ」

軍團長侍從武官陸軍大將前内閣議長「コンスタンチン、コアンダ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

前内閣議長「ニコラス、ピー、パチッチ」

外務大臣「アント、トルンビック」

佛蘭西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ミレンコ、ヴェスニッチ」

暹羅國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄暹羅國特命全權公使公爵「シャルーン」

外務次官公爵「トライドス、プラバンドゥ」

「チェッコ、スロヴァキア」共和國大統領

内閣議長「カーレル、クヲマール」

外務大臣「エドゥアルド、ベネシュ」

「ウルグァイ」共和國大統領
外務大臣前工務大臣「フアン、アントニオ、ブエロ」

獨逸國
外務大臣「ヘルマン、ミュルレル」
國務大臣「ドクトル、ベル」
以上二名ハ獨逸帝國及獨逸各邦ノ名ニ於テ行動ス

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

戰爭狀態ハ本條約實施ノ時ヨリ終了スヘシ同盟及聯合國ト獨逸國及獨逸各邦トノ公關係ハ其ノ時以後且本條約ノ規定ニ依リ恢復セラルヘシ

第一編
國際聯盟規約

締約國ハ
戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ
各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ
各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ
組織アル人民ノ相互ノ交涉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ
以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲
茲ニ國際聯盟規約ヲ協定ス

第一條

本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ本規約ニ加盟スル該附屬書列記ノ爾餘諸國ヲ以テ國際聯盟ノ原聯盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月以內ニ宣言書ヲ聯盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一切ノ他ノ聯盟國ニ通告スヘキモノトス

附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ其

ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト爲ルコトヲ得但シ其ノ國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與ヘ且其ノ陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定ムルコトアルヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス

聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ脫退ノ時迄ニ其ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務ハ履行セラレタルコトヲ要ス

第二條

本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會竝附屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

第三條

聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ隨時ニ之ヲ開ク

聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ有スヘク且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

第四條

聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者竝他ノ四聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ聯盟總會其ノ裁量ニ依リ隨時之ヲ選定ス聯盟總會カ第一次ニ選定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ白耳義國、伯剌西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以テ聯盟理事會員トス

聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半數ノ同意アルトキハ聯盟理事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定スルコトヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會ノ選定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同樣ノ同意ヲ以テ增加スルコトヲ得

聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開ク

聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシテ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セラルヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國ハ聯盟理事會會議ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコトヲ得

第五條

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外聯盟總會又ハ聯

盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス

聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ特殊事項

調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其

ノ會議ニ代表セラルル聯盟國ノ過半數ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得

聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞米利加合衆國大統領之

ヲ招集スヘシ

第六條

常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事務局ニハ事務總長一名

竝必要ナル事務官及屬員ヲ置ク

第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總長ハ聯盟總會過半數ノ

同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命ス

聯盟事務局ノ事務官及屬員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ事務總長之ヲ任命ス

事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ其ノ資格ニテ行動ス

聯盟事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ

負擔ス

第七條

聯盟本部所在地ハ「ジュネーヴ」トス

聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ聯盟本部所在地ト爲

スコトヲ得

聯盟ニ關シ又ハ之ニ附帶スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ地位ト共ニ男女均シ

ク之ニ就クコトヲ得

聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享

有ス

聯盟、聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建物其ノ他ノ財產ハ之ヲ不

可侵トス

第八條

聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テ

スル强制ニ支障ナキ最低限度迄縮少スルノ必要アルコトヲ承認ス

聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事

情ヲ參酌シテ軍備縮少ニ關スル案ヲ作成スヘシ

該案ハ少クトモ十年毎ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラルヘキモノトス

各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會ノ同意アルニ非サレハ該案

所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造カ重大ナル非議ヲ免レサルモ

ノナルコトヲ認ム仍テ聯盟理事會ハ該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ

具申スヘシ尤モ聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製造シ得

サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス

聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫竝軍事上ノ目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第九條

第一條及第八條ノ規定ノ實行竝陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條

聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條

戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ茲ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ招集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絕ニ至ルノ虞アル紛爭發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間內ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛爭事件付託後六月以內ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判ニ付シ得ト認ムル紛爭ヲ生シ其ノ紛爭カ外交手段ニ依リテ滿足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判ニ付スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否竝該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛爭ハ一般ニ仲裁裁判ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス

審理ノ爲紛爭事件ヲ付託スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ又ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ノ定ムル所ニ依ル

聯盟國ハ一切ノ仲裁判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ服スル聯盟國ニ對シテ

ハ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス判決ヲ履行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

第十四條

聯盟理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛爭ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス尙該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ諮問スル一切ノ紛爭又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛爭當事國モ紛爭ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

此ノ目的ノ爲紛爭當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得

聯盟理事會ハ紛爭ノ解決ニ力ムヘク其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛爭ニ關スル事實及說明竝其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ

紛爭解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半數ノ表決ニ基キ當該紛爭ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟國ハ何レモ當該紛爭ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

聯盟理事會ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛爭當事國ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ニ於テ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

紛爭當事國ノ一國ニ於テ紛爭カ國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會之ヲ是認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之カ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲモ爲ササルモノトス

聯盟理事會ハ本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ紛爭ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛爭當事國一方ノ請求アリタルトキハ亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛爭ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ノ行動及權能ニ適用ス但シ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國代表者及爾餘過半數聯盟國ノ代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行爲ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ斷絕シ自國民ト違約國國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義務アルモノトス

聯盟國ハ本條ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムル爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト竝聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖內通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラルル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

第十七條

聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互ノ間ニ紛爭ヲ生シタルトキハ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛爭事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス

勸誘ヲ受ケタル紛爭當事國ノ雙方カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行爲ヲ防止シ紛爭ヲ解決スヘ

キ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條

聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登錄シ聯盟事務局ハ成ルヘク速ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登錄ヲ了スル迄其ノ拘束力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十九條

聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ慫慂スルコトヲ得

第二十條

聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟國相互間ノ義務又ハ了解カ各自國ノ關スル限リ總テ本條約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス

聯盟國ト爲ル以前本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ負擔シタル聯盟國ハ直ニ該義務ノ解除ヲ得ルノ處置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十一條

本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條

今次ノ戰爭ノ結果從前支配シタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシテ近代世界ノ激甚ナル生存競爭狀態ノ下ニ未タ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其ノ使命遂行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包容スルコトノ主義ヲ適用ス

此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニシテ資源、經驗又ハ地理的位置ニ因リ最此ノ責任ヲ引受クルニ適シ且之ヲ受諾スルモノニ委任シ之ヲシテ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ行ハシムルニ在リ」

委任ノ性質ニ付テハ人民發達ノ程度、領土ノ地理的地位、經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ從ヒ差異ヲ設クルコトヲ要ス

從前土耳其帝國ニ屬シタル或部族ハ獨立國トシテ假承認ヲ受ケ得ル發達ノ程度ニ達シタリ尤モ其ノ自立シ得ル時期ニ至ル迄施政上受任國ノ助言及援助ヲ受クヘキモノトス前記受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ當該部族ノ希望ヲ考慮スルコトヲ要ス

他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ施政ノ責ニ任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限リ良心及信教ノ自由ヲ許與シ、奴隸ノ賣買又ハ武器若ハ火酒類ノ取引ノ如キ弊習ヲ禁止シ竝築城又ハ陸海軍根據地ノ建設及警察又ハ地域防衞以外ノ爲ニスル土民ノ軍

事教育ヲ禁遏スヘキコトヲ保障シ且他ノ聯盟國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス

西南阿弗利加及或南太平洋諸島ノ如キ地域ハ人口ノ稀薄、面積ノ狹小、文明ノ中心ヨリ遠キコト又ハ受任國領土ト隣接セルコト其ノ他ノ事情ニ因リ受任國領土ノ構成部分トシテ其ノ國法ノ下ニ施政ヲ行フヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土著人民ノ利益ノ爲前記ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス

各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委託地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ

受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ各場合ニ付之ヲ明定スヘシ

受任國ノ年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ實行ニ關スル一切ノ事項ニ付聯盟理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

第二十三條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ遵由シ

(イ) 自國内ニ於テ及其ノ通商産業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ人道的ナル勞働條件ヲ確保スルニ力メ且之カ爲必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

(ロ) 自國ノ監理ニ屬スル地域内ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルコトヲ約ス

(ハ) 婦人及兒童ノ賣買竝阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ實行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ニ) 武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於ケル該取引ノ一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ホ) 交通及通過ノ自由竝一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

(ヘ) 疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニ力ムヘシ

第二十四條

一般條約ニ依ル既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項處理ノ爲今後設ケラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキモノトス

一般條約ニ依リ規定セラレタル國際利害關係事項ニシテ國際事務局又ハ委員會ノ管理ニ屬セサルモノニ關シテハ聯盟事務局ハ當事國ノ請求ニ基キ聯盟理事會ノ同意ヲ得テ其ノ一切ノ關係情報ヲ蒐集頒布シ其ノ他必要又ハ望マシキ一切ノ援助ヲ與フヘシ

聯盟理事會ハ聯盟ノ指揮下ニ屬セシメタル事務局又ハ委員會ノ經費ヲ聯盟事

務局ノ經費中ニ編入スルコトヲ得

第二十五條

聯盟國ハ全世界ニ亙リ健康ノ增進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字篤志機關ノ設立及協力ヲ奬勵促進スルコトヲ約ス

第二十六條

本規約ノ改正ハ聯盟理事會ヲ構成スル代表者ヲ出ス聯盟各國及聯盟總會ヲ構成スル代表者ヲ出ス過半數聯盟國之ヲ批准シタルトキ其ノ效力ヲ生スルモノトス

右改正ハ之ニ不同意ヲ表シタル聯盟國ヲ拘束スルコトナシ但シ此ノ場合ニ於テ當該國ハ聯盟國タラサルニ至ルヘシ

附屬書

一 國際聯盟原聯盟國

平和條約署名國

亞米利加合衆國

白耳義國

「ボリヴィア」國

伯剌西爾國

英帝國

加奈陀

濠太利

南阿弗利加

新西蘭

印度

支那國

玖馬國

「エクアドル」國

佛蘭西國

希臘國

「グァテマラ」國

「ハイチ」國

「ヘヂァーズ」國

「ホンヂュラス」國

伊太利國

日本國
「リベリア」國
「ニカラグァ」國
巴奈馬國
祕露國
波蘭國
葡萄牙國
羅馬尼亞國
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國
暹羅國
「チェッコ、スロヴァキア」國
「ウルグァイ」國

聯盟規約ニ加盟ヲ招請セラレタル國

亞爾然丁國
智利國
哥倫比亞國
丁抹國

和蘭國
諾威國
「パラグァイ」國
波斯國
「サルヴァドル」國
西班牙國
瑞典國
瑞西國
「ヴェネズエラ」國

二　國際聯盟第一次事務總長

「サー、ジェームス、イーリック、ドラモンド」

第二編

獨逸國ノ境界

第二十七條

獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス

一　白耳義國トノ境界

白耳義、和蘭及獨逸ノ三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ向ヒ舊「モレスネ」中立地帶ノ北東境、白耳義國及「モンショア」郡間ノ國境、「マルメディー」郡ノ北東境及東境ヲ經テ盧森堡國境トノ接合點ニ至ル

二　盧森堡國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ國境ニ依リ千八百七十年七月十八日ノ佛蘭西國境トノ接合點ニ至ル

三　佛蘭西國トノ境界

盧森堡國ヨリ瑞西國ニ至ルノ間ハ第三編第四款「ザール」河流域第四十八條ノ規定ニ從フノ外千八百七十年七月十八日ノ國境ニ依ル

四　瑞西國トノ境界

現在ノ國境ニ依ル

五　墺地利國トノ境界

瑞西國ヨリ次ニ定ムル「チェッコ、スロヴァキア」國ニ至ルノ間千九百十四年八月三日ノ國境ニ依ル

六　「チェッコ、スロヴァキア」國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ獨墺兩國間ノ國境ト「ボヘミア」及上部墺地利州間ノ舊行政境界トノ接合點ヨリ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊墺地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ニ至ルノ間右獨墺兩國間ノ國境ニ依ル

七　波蘭國トノ境界

前記北端ヨリ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ實査ノ上確定セラルヘキ地點ニ至ルノ間

第八十八條ニ依リ定メラルヘキ國境ニ依ル

次テ北方ニ進ミ「ポズナニア」行政境界ト「バルチュ」河トノ會合點ニ至ルノ間

「スコリシャウ」「ライヒタール」「トレムバチャウ」「クンツェンドルフ」「シュライゼ」「グロース、コーゼル」「シュライベルスドルフ」「リッピン」「フェルストリッヒ、ニーフケン」「パウェラウ」「チェッシェン」「コンラダウ」「ヨハンニスドルフ」「モツェノウェ」「ボグダイ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ロルツェンドルフ」「カウルウィッツ」「グラウシェ」「ダルベルスドルフ」「レーゼウィッツ」「ストラーダム」「グロース、ワルテンベルグ」「クラッシェン」ノ「イ、ミッテルワルデ」「ドマスラウィッツ」

「ウェーデルスドルフ」「チェッシェン、ハムメル」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ境界ヲ北西方ニ進ミ之ト「ラウィッチュ」「ヘルンスタット」鐵道トノ交叉點ニ至ル

次テ「ポズナニア」ノ行政境界ト「ライゼン」「チルナウ」街道トノ交叉點ニ至ル間

「トリーブッシュ」「ガーベル」ノ西方、「ザーボルウィッツ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ行政境界ヲ進ミ「フラウスタット」郡ノ東方行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ北西方ニ進ミ「ウンルースタット」「コプニッツ」兩村落間ノ街道上ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「ガイエルスドルフ」「ブレンノ」「フェーレン」「アルトクロステル」「クレーベル」ノ西方、「ウルベルスドルフ」「ブーフワルド」「イルゲン」「ワイネ」「ルピッツェ」「シュウェンテン」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「クロップ」湖ノ北端ニ至ルノ間

諸湖ノ中央線ニ從ヒ實査ノ上境界線ヲ定ム但シ「ペンチェン」ノ市街及停車場（「シュウィーブス」「ペンチェン」「チュリッヒャウ」「ペンチェン」兩鐵道ノ接合

點ヲ含ム)ハ引續キ波蘭ノ版圖トス

次テ北東方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」及「メゼリッツ」ノ三郡境界ノ交會點ニ至ルノ間

「ベッチェ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」兩郡間ノ境界ニ從ヒ次ニ東方ニ向ヒ「ポズナニア」ノ北境ヲ進ミ「ネッツェ」河ヲ溯リ「キュッドウ」河ト「ネッツェ」河ノ會流點ニ至ルノ間

次テ「キュッドウ」河ヲ溯リ「シュナイデミュール」ノ南東方約六吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「キュッドウ」河ノ河流ニ依ル

次テ北東方ニ向ヒ「スターソン」ノ西方約五吉米ニ於ケル「ポズナニア」北境凹入部ノ南端ニ至ルノ間

此ノ地方ニ於ケル「シュナイデミュール」「コーニッツ」鐵道ヲ獨逸國版圖內ニ全部留ムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ境界ヲ北東方ニ進ミ「フラトウ」ノ東方約十五吉米ニ於ケル凸出部ノ尖端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「グルーナウ」ノ北東方約三吉米ニ於ケル「カミオンカ」河ト「コーニッツ」郡南境トノ會合點ニ至ルノ間

「ヤスドロウォ」「グロース、ルーダウ」「クライン、ルーダウ」及「ウイットカウ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「グロース、ブーケッヒ」「ナスコウォ」「バットロウ」「ベックク」及「グルーナウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「コーニッツ」「シュロッハウ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ之ト「ブラーヘ」河トノ交叉點ニ至ル

次テ「ポメラニア」ノ境界ヲ北東方ニ進ミ「フラトウ」凸出部ノ尖端ニ至ルスブルグ」ノ東方十五吉米ノ地點ニ至ルノ間

「コナルチン」「ケルピン」「アドレル、ブリーゼン」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ザムポール」「ノイグート」「スタインフォルト」「グロース、ペーテルカウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポメラニア」ノ境界ヲ東方ニ進ミ「コーニッツ」「シュロッハウ」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ北方ニ向ヒ「ポメラニア」西普魯西間ノ境界ヲ進ミ「ゴーラ」ノ北西方約三吉米ニ於ケル「レダ」河ト北西方ヨリ來ル一支流トノ會流點ニ至ル

次テ「ワルシュカウ」ノ北西方約一吉米半ニ於ケル「ピアスニッツ」河ノ彎曲部ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ピアスニッツ」河ヲ下リ「ツァルノウィッツ」湖ノ中央線、西普魯西ノ舊境界ヲ進ミ波羅的海ニ至ル

八　丁抹國トノ境界

第三編第十二款(「シュレスウィヒ」)第百九條乃至第百十一條ニ依リ定ムル國境ニ依ル

第二十八條

東普魯西ノ境界ハ第三編第九款(東普魯西)ノ規定ニ從フノ外左ノ通之ヲ決定ス」

「プレッベルナウ」教會堂ノ北方約一吉米半ノ波羅的海岸ノ地點ヨリ該地點ヲ通スル眞子午線ノ東方約百五十九度ノ方位ニ向ヒ

約二吉米ノ間實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北緯五十四度十九分半緑威東經十九度二十六分ノ邊ニ在ル「エルビング」水道彎曲部ノ燈臺ニ向ヒ一直線ニ進ミ

次テ同地點ヨリ眞子午線ノ東方約二百九度ノ方位ニ向ヒ「ノガット」河口ノ東端ニ達ス

次テ「ノガット」河ノ河流ヲ溯リ同河カ「ヴィスチュラ」河(「ワイクセル」河)ト分岐スル點ニ至ル

次テ「ヴィスチュラ」河主要航行水道ヲ溯リ「マリエンウェルデル」郡及「ローゼンベルグ」郡ノ南境ヲ東方ニ進ミ東普魯西舊境界ト接合點ニ至ル

次テ東西普魯西間ノ舊境界竝「オステローデ」及「ナイデンブルグ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ「スコッタウ」河ノ河流ヲ下リ更ニ「ナイデ」河ノ河流ヲ溯リ「ビアルッテン」ノ西方約五吉米ニ於ケル露西亞國舊國境ニ最近キ地點ニ至ル

次テ東方ニ向ヒ「ナイデンブルグ」―「ムラヴァ」街道ト露西亞國舊國境トノ交叉點直南ノ地點ニ至ルノ間

「ビアルッテン」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ露西亞國舊國境ニ沿ヒ「シュマルレニンケン」東方ノ地點ニ至リ「ニーメン」河(「メーメル」河)ノ主要航行水道ヲ下リ三角洲ノ「スキルウィート」入江ヨリ「クーリッシェ、ハフ」ニ至ル

次テ直線ヲ以テ「クーリッシェ、ネールング」ノ東岸ト「ニッデン」南西方約四吉米ニ於ケル行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ此ノ行政境界ヲ進ミ「クーリッシェ、ネールング」ノ西岸ニ達ス

第二十九條

前記ノ境界ハ本條約附屬百萬分一地圖(地圖第一號)上ニ赤線ヲ以テ之ヲ表示ス」

本條約ノ本文ト前項ノ地圖又ハ他ノ附屬地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

第三十條

水路ヲ以テ境界ヲ決定スル場合ニ於テ本條約ニ使用スル「河流」及「水道」ナル語ハ航行不能河川ニ在リテハ水路ノ又ハ其ノ本流ノ中央線、航行可能河川ニ在リテハ主要航行水道ノ中央線ヲ謂フ河流又ハ水道ノ移動ニ從ヒ國境線ノ變更ヲ生スヘキヤ或ハ本條約實施當時ニ於ケル河流又ハ水道ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定スヘキヤハ本條約ニ定ムル境界委員會ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス

第三編

歐洲政治條項

第一款

白耳義國

第三十一條

獨逸國ハ戰前ニ於ケル白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ要求ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ該條約ノ廢棄ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フルカ爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府及和蘭國政府ト共ニ締結スヘキ一切ノ條約ヲ直ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ條項ニ對シ獨逸國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ獨逸國ハ直ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

第三十二條

獨逸國ハ「モレスネ」係爭地域(所謂「モレスネ」中立地帶)全部ニ對スル白耳義國ノ完全ナル主權ヲ承認ス

第三十三條

獨逸國ハ「リエージュ」ヨリ「エークス、ラ、シャペル」ニ至ル道路ノ西方ニ位スル普魯西領

「モレスネ」地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス該道路ニシテ右地域ノ境界タル部分ハ白耳義國ニ歸屬スヘシ

第三十四條

獨逸國ハ「オイペン」「マルメディー」兩郡ノ全部ニ亙ル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス

本條約實施後六月間白耳義國官憲ハ「オイペン」及「マルメディー」ニ於テ登錄簿ヲ公開スヘク前記地域ノ住民ハ同地域ノ全部又ハ一部カ引續キ獨逸國主權ノ下ニ立タムコトヲ希望スル旨右登錄簿ニ記入スルノ權利ヲ有ス

白耳義國政府ハ右民意公表ノ結果ヲ國際聯盟ニ通告スヘク白耳義國ハ聯盟ノ決定ヲ受諾スヘキコトヲ約ス

第三十五條

經濟上ノ要素及交通機關ノ關係ヲ參酌シテ白耳義獨逸兩國間ノ新國境線ヲ實査ノ上確定スル爲本條約實施後十五日以內ニ主タル同盟及聯合國ノ任命スル六名ノ委員竝獨逸國及白耳義國ノ任命スル各一名ノ委員計七名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ

該委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘシ

第三十六條

前揭地域ニ對スル主權ノ移轉確定シタルトキハ該地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然確定的ニ白耳義國國籍ヲ取得シ獨逸國國籍ヲ喪失ス

尤モ千九百十四年八月一日以後該地域ノ住民ト爲リタル獨逸國民ハ白耳義國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ白耳義國國籍ヲ取得セサルモノトス

第三十七條

本條約ニ基キ白耳義國ニ讓渡シタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ該地域ニ對スル主權ノ移轉完了後二年以內ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス」

右選擇權行使者ハ白耳義國ノ取得シタル地域ニ在ル其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

第三十八條

獨逸國政府ハ白耳義國ノ主權ノ下ニ移シタル地域內ニ於ケル民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遲滯ナク白耳義國政府ニ引渡スヘシ

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國官憲カ白耳義國官公署殊ニ「ブリュッセル」ニ於ケル外務省ヨリ持去リタル各種ノ記錄及文書ヲ同樣白耳義國政府ニ返付スヘシ

第三十九條

白耳義國カ其ノ讓渡ヲ受ケタル地域ニ關シ負擔スヘキ獨逸國及普魯西ノ債務ノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條及第二百五十六條ニ依リテ之ヲ決定スヘシ

第二款　盧森堡國

第四十條

盧森堡大公國ニ關シ獨逸國ハ千八百四十二年二月八日、千八百四十七年四月二日、千八百六十五年十月二十日—二十五日、千八百六十六年八月十八日、千八百七十年九月十日—十七年二月二十一日同五月十一日、千八百七十一年五月十日、千八百七十二年六月十一日及千九百二年十一月十一日ノ諸條約竝此等條約ニ基ク一切ノ條約中獨逸國ノ爲ニ設ケタル一切ノ規定ノ利益ヲ拋棄ス

獨逸國ハ盧森堡大公國カ千九百十九年一月一日以後獨逸關稅同盟ヲ脫退シタルコトヲ承認シ、鐵道經營ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ、大公國ノ永世局外中立ノ終了ニ同意シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スヘキ一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

第四十一條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國カ之ヲ要求スル場合ニ於テハ經濟問題竝運送及航空ニ關スル問題ニ付該諸國又ハ其ノ國民ノ爲ニ本條約中ニ規定シタル諸種ノ權利及便益ヲ盧森堡大公國ニ許與スヘキコトヲ約ス

第三款

萊因河左岸

第四十二條

獨逸國ハ萊因河ノ左岸又ハ同河ノ東方五十吉米ニ引キタル線ノ西方ニ在ル同河右岸ニ於テ築城ヲ保有シ又ハ構設スルコトヲ得ス

第四十三條

前條規定ノ境域内ニ於テハ武裝シタル兵力ノ永久又ハ一時ノ駐屯及集合竝各種ノ軍事演習ヲ禁ス動員ノ爲ニスル一切ノ永久施設ノ保持ニ付亦同シ

第四十四條

獨逸國ニシテ其ノ方法ノ如何ヲ問ハス第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ本條約ノ署名國ニ對シ敵對行爲ヲ爲シ且世界ノ平和ヲ攪亂スルモノト看做サルヘシ

第四款

「ザール」河流域

第四十五條

獨逸國ハ佛蘭西國北部ノ炭鑛破壞ニ對スル補償トシテ又戰爭ニ基ク損害ニ付獨逸國ノ負擔スル全賠償額ノ一部支拂トシテ第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域ニ在ル炭鑛ニ對スル完全且絶對ナル所有權及之カ採掘ノ獨占權ヲ何等ノ金錢債務及負擔ヲモ伴フコトナク佛蘭西國ニ讓渡ス

第四十六條

住民ノ權利及福祉ヲ確保シ且佛蘭西國ニ對シ鑛山經營ニ關スル完全ナル自由ヲ保障スル爲獨逸國ハ本款附屬書第一章及第二章ノ規定ニ同意ス

第四十七條

「ザール」河流域ノ施政ニ關シ相當期間内ニ於テ住民ノ希望ニ適應スル永久ノ規定ヲ設クルノ目的ヲ以テ佛蘭西國及獨逸國ハ本款附屬書第三章ノ規定ニ同意ス

第四十八條

本條款ニ掲クル「ザール」河流域地方ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス

南方及南西方方面　本條約ニ定ムル佛蘭西國境ニ依ル

北西方及北方方面　「メルチッヒ」郡北方行政境界ト佛蘭西國境トノ接合點ヨリ該行政境界ヲ進ミ「ザールヘルツバッハ」「ブリッテン」兩村間ノ行政境界ニ達シ「ブリッテン」村ヲ除クル次テ該兩村ノ境界ヲ南進シ「メルチッヒ」區ノ行政境界ニ達シ「ブリッテン」村ヲ除クノ外「メットラッハ」區ヲ「ザール」河流域地方ニ包含セシメ次テ前記「ザール」河流域ニ編入セラレタル「メルチッヒ」及「ハウスタット」兩區ノ北方行政境界ヲ進ミ更ニ「ザールルイス」「オットワイレル」及「サン、ウェンデル」各郡ト「メルチッヒ」「トレーヴ」「トリエール」兩郡及「ビルケンフェルド」公國トノ行政境界ヲ進ミ「フルシュワイレル」村落ノ北方約五百米ノ地點(卽チ「メッツェルベルグ」ノ最高點)ニ至ル

北東方及東方方面　前記ノ地點ヨリ「サン、ウェンデル」ノ東北東方約三吉米半ノ地點ニ至ルノ間

「フルシュワイレル」ノ東方、「ロッシュベルグ」ノ西方及標高四一八及三二九(「ロッシュベルグ」ノ南方)ノ東方、「ライテルスワイレル」ノ西方、標高四六四ノ北東方ヲ過キ分水線ヲ南方ニ進ミ「クーゼル」郡行政境界トノ接合點ニ至ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ「クーゼル」郡ノ境界ヲ進ミ更ニ「ホムブルグ」郡ノ境界ヲ南南東方ニ進ミ「ドゥンツワイレル」ノ西方約千米ノ地點ニ至ル

次テ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米ノ地點ニ至ルノ間

標高四二四(「ドゥンツワイレル」ノ南東方約千米)、標高三二六(「ホムブルグ」市街ノ北東微東方約二吉米半)、標高三四二(「ホムブルグ」市街南東方約二吉米)、標高三二五、標高三五〇(「シュワルツェンバッハ」ノ南東方約一吉米半)ヲ經テ「アイグ」ノ南方ニ向ヒ「エーゲルスブルグ」及「エルバッハ」ノ東方ヲ經テ「ホムブルグ」市街ノ北東方約二吉米)、標高三五七(「シュライネルス、ベルンネェド」ノ東方、標高三二二及三三三ノ南東方、「ウェーベンハイム」ノ東方約二吉米及「ミームバッハ」ノ東方約二吉米ヲ過キ更ニ「ミームバッハ」「ベックワイレル」街道ニ依リ橫斷セラルル高地ノ東方ヲ經テ(該街道ヲ「ザール」河流域地方ニ包含セシメ)「アルトハイム」ノ北方約二吉米ニ於ケル「ベックワイレル」及「アルトハイム」ヨリ來ル兩街道ノ接合點ノ直北ヲ過キ「リングワイレルホーフ」ノ南方及標高三二二ノ北方ヲ過キ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米佛蘭西國境ノ凸角部ニ於テ之ト合スルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム(本條約附屬十萬分一地圖第二號參照)

前記國境線ノ實査劃定ヲ行フ爲本條約實施後十五日以內ニ佛蘭西國ノ任命スル委員一名、獨逸國ノ任命スル委員一名及國際聯盟理事會ニ於テ右二國外ノ國ノ國民中ヨリ選任スル委員三名合セテ五名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ

前記境界線中行政境界ト一致セサル部分ニ付テハ委員會ハ能フ限リ地方ノ經濟上ノ利益及現在ノ市町村ノ境界ヲ斟酌シ指定ノ境界線ニ依ルコトニ力ムヘシ」

右委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘキモノトス

第四十九條

獨逸國ハ受託者トシテノ國際聯盟ノ爲ニ前記地域上ノ施政權ヲ抛棄ス
本條約實施後十五年ノ終ニ於テ前記地域ノ住民ヲシテ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セシムヘシ

第五十條

「ザール」河流域ニ於ケル鑛山ノ讓渡實行ニ關スル規定ハ住民ノ權利福祉及該地域ノ施政ノ保障ヲ目的トスル措置竝前條ノ民意表示ニ關スル條件ト共ニ本款附屬書ニ之ヲ規定ス該附屬書ハ本條約ノ一部ヲ爲スモノト認メラルヘク且獨逸國ハ之ヲ遵守スヘキコトヲ聲明ス

附屬書

第四十五條乃至第五十條ノ規定ニ依リ獨逸國ノ佛蘭西國ニ對スル「ザール」河流域鑛山ノ讓渡ノ實行ニ關スル規定、住民ノ權利及福祉ヲ尊重シ及該地域ノ施政ヲ確保スルコトヲ目的トスル措置竝該住民ニ對シ其ノ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セムコトヲ求ムル條件ヲ規定スルコト左ノ如シ

第一章

鑛山ノ讓渡及採掘

一

第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域地方ニ在ル一切ノ炭田ハ本條約實施ノ日以後完全且絶對ニ佛蘭西國ノ財産ト爲ルモノトス

佛蘭西國ハ豫メ認諾ヲ經ルコトナク又ハ何等ノ手續ヲ履ムコトナク該鑛山ヲ採掘シ若ハ採掘セサルノ權利又ハ之カ採掘權ヲ第三者ニ讓渡スルノ權利ヲ有スヘシ

佛蘭西國ハ其ノ權利ヲ確實ニスル爲何時タリトモ左記ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ請求スルコトヲ得

二

佛蘭西國ノ所有權ハ未タ特許ヲ付與セラレサル未著手ノ炭田ニ及フノミナラス既ニ特許ヲ付與セラレタル炭田ト雖現所有者ノ何人タルヲ問ハス卽チ其ノ普魯西國ニ屬スルト巴威國ニ屬スルト其ノ他ノ國若ハ團體ニ屬スルト會社若ハ個人ニ屬スルトヲ問ハス又現ニ採掘セラルルト否ト又ハ地表所有者ノ權利ト別個ノ採掘權カ認メラレタルト否トニ拘ラス總テ之ニ及フヘシ

三

現ニ採掘中ノ鑛山ニ在リテハ佛蘭西國ニ對スル所有權讓渡ノ效力ハ該鑛山ニ關スル一切ノ附帶機關殊ニ地表及地下ニ於ケル其ノ諸設備及機械、採掘機、石炭ヲ電力骸炭及副產物ニ變形スル工場設備、作業場、交通機關、電線、引水及配水ノ設

備土地、事務所支配人被用者及勞働者ノ住宅學校病院藥局等ノ建築物、各種ノ在庫品及供給品、記錄及圖面竝概言スレハ鑛山ヲ所有シ又ハ採掘スル者カ鑛山及其ノ附帶機關經營ノ爲占有シ又ハ享有スル一切ノモノニ及フヘシ

四

前記讓渡ノ效力ハ佛蘭西國ノ占有前本條約署名後ノ交付ニ係ル產出物ノ代金及取引先ノ爲シタル供託金ニ及フ但シ取引先ノ權利ハ佛蘭西國之ヲ保障スヘシ

佛蘭西國ハ一切ノ金錢債務及負擔ヲ負フコトナク前記ノ財產ヲ取得スヘシ但シ鑛山及其ノ附帶機關ノ被用者カ本條約實施ノ日ニ於テ養老又ハ癈疾年金ニ關シ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ハ之ニ因リテ影響ヲ受クルコトナカルヘシ獨逸國ハ右代償トシテ佛蘭西國ニ對シ該被用者ノ受クヘキ年金ニ對スル保險統計上ノ積立金ヲ支拂フコトヲ要ス

五

右佛蘭西國ニ讓渡サレタル財產ノ價額ハ第八編賠償第二百三十三條ノ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

右價額ハ賠償金額ノ一部支拂トシテ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

獨逸國ハ當該財產ノ所有者又ハ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス之ニ賠償ヲ爲スヘキモノトス

六

獨逸國ノ鐵道及運河ニ於テハ鑛山及其ノ附帶機關ノ人員若ハ產出物又ハ經營ニ必要ナル材料ノ運送ニ不利益ナル直接又ハ間接ノ差別料金率ヲ設クルコトヲ得ス右運送ニ關シテハ佛蘭西國原產ノ同種產出物ニ對シ國際鐵道條約ノ保障スル一切ノ權利及特權ヲ許與スヘシ

七

鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ發送及運送竝勞働者及被用者ノ運搬ヲ確保スル爲必要ナル設備及人員ハ「ザール」河流域ノ地方鐵道管理者之ヲ提供スヘシ

八

佛蘭西國カ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ發送及運送ヲ確保スル爲必要ト認ムル鐵道又ハ水路ノ改良例ヘハ複線工事、停車場ノ擴張竝構內設備及附屬物ノ建設等ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス費用ノ分擔ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ付スヘシ

佛蘭西國ハ又鑛山ノ採掘ニ必要ト認ムル道路、電線及電話聯結ノ如キ新交通機關ヲ開設スルコトヲ得

佛蘭西國ハ其ノ所有スルコトアルヘキ交通機關殊ニ鑛山及其ノ附帶機關ト佛蘭西國版圖內ニ在ル交通機關トヲ連結スルモノヲ自由ニ且何等ノ制限ナク經營スルコトヲ得

九

佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ノ爲必要ト認ムル土地ヲ取得スル爲何時タリトモ千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ要求スルノ權利ヲ有ス但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス」

右鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ニ依リ不動產ニ及ホシタル損害ニ對スル支拂ハ前記獨逸國鑛業法令ニ依リ之ヲ行フヘシ

十

鑛山及其ノ附帶機關經營ノ權利ノ全部又ハ一部ニ付佛蘭西國カ自己ニ代位セシムル者ハ本附屬書所定ノ特權ノ利益ヲ享受スヘシ

十一

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山其ノ他ノ不動產ハ失權、買戻、公用徵收又ハ徵發其ノ他財產權ニ影響ヲ及ホス何等ノ處分ノ目的ト爲ルコトナシ

鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關係アル人員及設備竝鑛山ヨリ採掘シ又ハ其ノ附帶機關ニ依リ製造シタル產出物ハ如何ナル場合ニ於テモ何等徵發處分ノ目的ト爲ルコトナシ

十二

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ハ本附屬書二十三ノ規定ニ從フノ外千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國法令ニ依リ定メラレタル制度ニ引續キ遵由スヘシ但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス

勞働者ノ權利ハ右二十三ノ規定ニ從フノ外前記獨逸國法令ニ依リ定メラレタル千九百十八年十一月十一日現在ノ通維持セラルヘシ

右流域外ノ地ノ勞働者ヲ鑛山及其ノ附帶機關ニ傭入レ又ハ之ヲ使用スルニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス

佛蘭西國國籍ヲ有スル被用者及勞働者ハ佛蘭西勞働組合ニ屬スルノ權利ヲ有スヘシ

十三

鑛山及其ノ附帶機關ヨリ「ザール」河流域地方ノ地方歲入又ハ市町村收入中ニ納付スヘキ金額ハ鑛山ノ價額ト該流域ニ於ケル課稅シ得ヘキ一切ノ富トノ割合ヲ案シテ之ヲ決スヘシ

十四

佛蘭西國ハ常ニ鑛山ノ附帶事業トシテ被用者及其ノ兒童ノ爲小學校又ハ技藝學校ヲ建設維持シ且該學校ニ於テ佛蘭西國ノ選定スル課程及敎師ニ依リ佛蘭西語ヲ以テ敎育ヲ授クルノ權利ヲ有スヘシ

佛蘭西國ハ又病院、藥局、勞働者ノ住宅及庭園其ノ他慈善的及社會的ノ設備ヲ建設維持スルノ權利ヲ有スヘシ

十五

佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ分配、發送及賣價ニ關シ完全ナル自由ヲ享有スヘシ

尤モ鑛山全產出額ノ多少ニ拘ラス佛蘭西國政府ハ產業用及家事用ノ地方的消費ニ充ツル爲千九百十三年ニ於ケル「ザール」河流域ノ地方的消費額ト該流域全產出額トノ比例ニ依リ常ニ右產出物ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第二章

「ザール」河流域地方ノ施政

十六

「ザール」河流域地方ノ施政ハ國際聯盟ヲ代表スル委員會ニ之ヲ委任スヘシ該委員會ハ「ザール」河流域地方ニ之ヲ設置ス

十七

本附屬書十六ニ規定スル施政委員會ハ國際聯盟理事會ノ選定スル五名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織シ佛蘭西國人民一名、佛蘭西國人民ニ非サル「ザール」河流域土著ノ住民一名及佛蘭西獨逸兩國以外ノ三國ニ屬スル者三名ヲ以テ之ニ充ツ

施政委員會委員ノ任期ハ一年トシ重任スルコトヲ得國際聯盟理事會ハ該委員ヲ罷免スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該理事會ハ其ノ後任者ヲ定ムヘシ

施政委員會委員ハ俸給ノ額ハ國際聯盟理事會之ヲ定ム該俸給ハ地方收入ノ支辨トス

十八

施政委員會ノ委員長ハ委員中ヨリ國際聯盟理事會之ヲ任命ス其ノ任期ハ一年トシ再任スルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ執行機關トシテ行動ス

十九

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ從來獨逸帝國、普魯西又ハ巴威ニ屬シタル一切ノ施政權ヲ保有スヘシ該施政權中ニハ官吏ヲ任免シ竝其ノ必要ト認ムル行政機關及代表機關ヲ創設スルノ權能ヲ包含ス

右委員會ハ鐵道、運河其ノ他ノ公企業ヲ管理及經營スルノ全權ヲ有スヘシ

右委員會ノ決議ハ過半數ニ依ルヘシ

二十

獨逸國ハ「ザール」河流域地方又ハ其ノ住民ノ權利ニ關スル一切ノ公文書及記錄ニシテ獨逸國、獨逸各邦又ハ地方官憲ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ施政委員會ノ使用ニ供スヘシ

二十一

施政委員會ハ其ノ適當ト認ムル手段及條件ニ依リ「ザール」河流域地方住民ノ利益ヲ其ノ地方外ニ於テ確實ニ保護スルノ責ニ任ス

二十二

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ公物又ハ私物上ニ存在シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府ニ屬スル鑛山以外ノ一切ノ財産ニ對シ完全ナル使用收益ノ權利ヲ有スヘシ

鐵道ニ付テハ「ザール」河流域地方政廳ト獨逸諸鐵道トヲ代表スル混合委員會ハ車輛ノ衡平ナル分配ヲ爲スヘシ

「ザール」河流域ニ出入スル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ハ第十二編(港、水路及鐵道)ニ規定スル通過及運送ニ關スル一切ノ權利及特權ヲ享有スヘシ

二十三

「ザール」河流域地方ニ於テハ千九百十八年十一月十一日現行ノ法令ハ戰爭狀態ニ基キ制定セラレタルモノヲ除クノ外引續キ之ヲ適用スヘシ

一般的理由ニ依リ又ハ本條約ノ規定ト合致セシムル爲右諸法令ニ修正ヲ加フルノ必要アルトキハ施政委員會ハ其ノ定ムル方法ニ依リ住民ノ選出代表者ト協議シタル後該修正ヲ決定シ且施行スヘシ

本附屬書十二ニ規定スル鑛山採掘ニ關スル法制ハ豫メ佛蘭西國ト協議スルニ非サレハ之ヲ修正スルコトヲ得ス但シ國際聯盟ノ採用シタル勞働ニ關スル一般規定ニ基ク修正ハ此ノ限ニ在ラス

男子、婦人及兒童ノ勞働條件及時間ヲ決定スルニ當リテハ施政委員會ハ地方勞働團體ノ表示シタル希望及國際聯盟ノ採用シタル原則ヲ參酌スルコトヲ要ス

二十四

「ザール」河流域ノ住民カ本條約實施ノ日ニ於テ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ニシテ獨逸國ノ保險制度又ハ各種ノ年金ニ關スルモノハ本條約ノ規定ニ依リ何等影響ヲ受クルコトナシ但シ第四項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

獨逸國及「ザール」河流域地方政廳ハ一切ノ前記ノ權利ヲ存續セシムヘシ

二十五

「ザール」河流域地方ノ民事及刑事ノ裁判所ハ之ヲ存續スヘシ

右裁判所ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理シ及其ノ權限外ノ事件ヲ裁判スル爲施政委員會ハ一ノ民刑事裁判所ヲ設置スヘシ

施政委員會ハ該裁判所ノ構成及管轄ヲ決定スルノ責任ヲ有ス

裁判ハ施政委員會ノ名ニ於テ之ヲ行フ

二十六

「ザール」河流域地方ニ於ケル租稅及手數料ハ施政委員會獨リ之ヲ徵收スルノ權能ヲ有ス

右ノ租稅及手數料ハ專ラ之ヲ該地域ノ需用ニ充ツ

千九百十八年十一月十一日現行ノ財政制度ハ成ルヘク之ヲ維持スヘシ又豫メ住民ノ選出代表者ト協議シタル場合ヲ除クノ外新ニ關稅以外ノ何等ノ租稅ヲ

賦課スルコトヲ得ス

二十七

本諸規定ハ「ザール」河流域地方ノ住民ノ現ニ有スル國籍ニ影響スルコトナシ

他國籍ヲ取得セムコトヲ希望スル者ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ新國籍ノ取得ハ其ノ他ノ國籍ヲ喪失セシムルモノトス

二十八

住民ハ施政委員會ノ監督ノ下ニ其ノ地方議會、信教ノ自由、學校及言語ヲ保持スヘシ

投票權ハ地方議會以外ノ議會ニ關シ行使セラルルコトナカルヘク又男女ノ別ナク二十歳以上ノ總テノ住民之ヲ有スヘシ

二十九

「ザール」河流域ノ住民ニシテ該地域ヲ退去セムト欲スル者ハ其ノ不動産ヲ該地域内ニ保有シ又ハ相當ノ價格ヲ以テ之ヲ賣却シ且何等ノ負擔ヲ課セラルルコトナクシテ其ノ動産ヲ撤去スルノ完全ナル自由ヲ有ス

三十

「ザール」河流域地方ニ於テハ強制タルト志願タルトヲ問ハス何等ノ兵役制度ヲ設クルコトナカルヘシ又同地域内ニ於テハ築城ノ構設ヲ禁止ス

秩序維持ノ爲ニスル地方憲兵ノミハ之ヲ置クコトヲ得

施政委員會ハ一切ノ場合ニ於テ「ザール」河流域内ニ於ケル人及財産ノ保護ニ任スルノ義務ヲ有ス

三十一

第四十八條ニ掲クル「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國ノ關稅制度ニ依ルヘキモノトス地方消費ノ爲仕向ケラレタル貨物ニ對スル關稅收入ハ一切ノ徵收費ヲ控除シタル上之ヲ該地域ノ豫算ニ編入スヘシ

右地域ヨリ獨逸國ニ輸出スル冶金生産品又ハ石炭ニ對シテハ何等ノ輸出稅ヲ賦課セス「ザール」河流域地方ノ産業ニ使用スル獨逸國ノ輸出品ニ付亦同シ

獨逸國ノ版圖ヲ通過スル右流域原産ノ天産物又ハ製造品ハ何等ノ關稅ヲ賦課セラルルコトナシ該流域ヲ通過スル獨逸國産物亦同シ

右流域ノ原産ニシテ右流域ヨリ獨逸國ニ入ル生産物ニ對シテハ本條約實施ノ日以後五年間輸入稅ヲ免除スヘシ地方消費ノ爲獨逸國ヨリ右流域ニ輸入スル貨物ニ對シ亦同シ

佛蘭西國政府ハ前記五年ノ期間獨逸國ヨリ無稅ニテ右流域ニ輸入セラレタル原料品及半製品ヲ含ム一切ノ貨物ニシテ同流域ヨリ佛蘭西國ニ運送セラルルモノノ數量ヲ千九百十一年乃至千九百十三年ニ「アルザス、ロレーヌ」及佛蘭西國ニ輸入セラレタル數量ノ平均年額迄制限スルノ權利ヲ留保ス右平均額ハ一切ノ公ノ情報及統計ヲ參照シテ之ヲ決定スヘシ

三十二

「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國貨幣ノ流通ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得ス

佛蘭西國ハ鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關スル一切ノ購買、支拂及契約ニ於テ佛蘭西國貨幣ヲ使用スルノ權利ヲ有ス

三十三

施政委員會ハ前記諸規定ノ解釋ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權能ヲ有ス

佛蘭西國及獨逸國ハ前記諸規定ノ解釋ニ關スル意見ノ相違ニ基ク一切ノ爭議ヲ均シク施政委員會ニ付議スヘキコトヲ承諾ス過半數ニ依ル該委員會ノ決定ハ兩國ヲ拘束スヘシ

第三章　人民一般投票

三十四

「ザール」河流域地方ノ住民ハ本條約實施後十五年ノ期間滿了ノ時ニ於テ左ノ方法ニ依リ其ノ希望ヲ表示スルコトヲ求メラルヘシ

市町村又ハ區毎ニ左ノ三者中ノ一ヲ選フ爲投票ヲ行フヘシ

(イ)　本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ノ維持

(ロ)　佛蘭西國トノ合併

(ハ)　獨逸國トノ合併

投票ノ日ニ於テ二十歲以上ニシテ本條約署名ノ日ニ右地域內ニ居住シタル者ハ男女ノ別ナク悉ク投票權ヲ有ス

右ノ外ノ投票ノ要件、方法及期日ハ投票ノ自由、祕密及確實ヲ保障シ得ヘキ方法ニ依リ國際聯盟理事會之ヲ決定ス

三十五

國際聯盟ハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望ヲ考量シ右地域ノ歸屬スヘキ主權ヲ決定スヘシ

(イ)　國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ニ對シ本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ヲ維持スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ必要ト認ムル所ニ從ヒ國際聯盟ノ爲ニ主權ヲ拋棄スルコトヲ玆ニ承諾ス國際聯盟ハ確定的ニ採用セラレタル前記制度ヲ右地域ノ永久ノ福祉及一般ノ利益ニ適應セシムル爲適當ナル處置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

(ロ)　國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ佛蘭西國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ決定ニ從ヒ佛蘭西國ニ對シ聯盟ノ指定スル地域ニ於ケル一切ノ權利及權原ヲ讓渡スヘキコトヲ承諾ス

(ハ)　國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ國際聯盟ハ其ノ指定スル地域ニ對シ獨逸國政府ヲシテ其ノ施政ヲ再興セシムヘキ義務ヲ有ス

三十六

國際聯盟カ「ザール」河流域地方ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタルトキハ該地域ニ在ル鑛山ニ對スル佛蘭西國ノ所有權ハ金貨拂ノ價格ヲ以テ全部獨逸國之ヲ買戻スヘシ其ノ價格ハ獨逸國ノ指名スル一名、佛蘭西國ノ指名スル一名、國際聯盟理事會ニ於テ佛蘭西人及獨逸人ニ非サル者ヨリ指名スル一名計三名ノ專門家之ヲ決定スヘシ右專門家ノ決定ハ過半數ニ依ル

前記獨逸國ノ支拂義務ハ賠償委員會之ヲ考量スヘシ獨逸國ハ右支拂ニ充ツル爲同委員會ノ同意シタル細目條件ニ依リ其ノ財産又ハ收入ノ上ニ優先權ヲ設定スルコトヲ得

獨逸國カ支拂期日後一年內ニ右支拂ヲ爲ササルトキハ賠償委員會ハ國際聯盟ノ訓令ニ從ヒ支拂ノ方法ヲ講シ又必要ノ場合ニ於テハ當該鑛山ヲ清算シ右支拂ニ充ツヘシ

三十七

本附屬書三十六ノ規定ニ依ル買戻ノ結果鑛山又ハ其ノ一部ノ所有權カ獨逸國ニ移轉シタルトキハ佛蘭西國及同國民ハ其ノ產業用及家事用ノ爲其ノ當時必要ト認メラルル數量ノ「ザール」河流域ノ石炭ヲ購買スルノ權利ヲ有スヘシ石炭ノ數量、契約ノ存續期間及價格ニ關スル衡平ナル協定ハ適當ナル時期ニ於テ國際聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

三十八

佛蘭西國及獨逸國ハ鑛山買戻ノ價格支拂期日以前ニ締結スル特別取極ヲ以テ本附屬書三十六及三十七ノ規定ヲ修正スルコトヲ得

三十九

國際聯盟理事會ハ本附屬書三十五ニ規定スル國際聯盟ノ決定實施後行ハルヘキ制度ノ設定ヲ爲必要ナル規定ヲ設クヘシ該規定中ニハ委員會ノ起債ニ依リ又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ生シタル「ザール」河流域地方政廳ノ債務ノ衡平ナル分配ヲ含ムヘシ

施政委員會ノ權能ハ新制度實施ノ時ヨリ消滅ス但シ本附屬書三十五(イ)號ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四十

本附屬書ニ揭クル一切ノ事項ニ關スル國際聯盟理事會ノ決定ハ過半數ニ依ル

第五款

「アルザス、ロレーヌ」

締約國ハ佛蘭西國ノ權利ニ對シ竝「ボルドー」會議ニ於ケル「アルザス」及「ロレーヌ」代表者ノ嚴重ナル抗議ニ拘ヲス祖國ヨリ分離セラレタル右兩州人民ノ希望ニ對シ千八百七十一年獨逸國ノ加ヘタル非行ヲ是正スヘキ德義上ノ義務アルコトヲ認メ

左ノ諸條ヲ約定ス

第五十一條

千八百七十一年二月二十六日「ヴェルサイユ」ニ於テ署名セラレタル講和豫備條約及千八百七十一年五月十日ノ「フランクフルト」條約ニ依リ獨逸國ニ讓渡セラレタル地域ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約締結ノ日以後佛蘭西國主權ノ下ニ復歸ス

千八百七十一年以前ニ於ケル國境劃定ニ關スル諸條約ノ規定ハ其ノ效力ヲ回復スヘキモノトス

第五十二條

獨逸國政府ハ佛蘭西國主權ノ下ニ復歸シタル地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル一切ノ記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遲滯ナク佛蘭西國政府ニ引渡スヘシ若シ以上ノ文書、記錄、登錄簿、證書又ハ圖面中他ニ移シタルモノアルトキハ獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ請求ニ應シ之ヲ還付スヘシ

第五十三條

第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ノ利益殊ニ其ノ私權、營業及業務執行ニ關シテハ佛蘭西國ト獨逸國トノ間ニ別個ノ取極ヲ締結スヘシ但シ獨逸國ハ今後本款附屬書中ニ揭ケタル右地域內ノ住民又ハ原住者ノ國籍ニ關スル規定ヲ承認受諾シ、既ニ佛蘭西人タルコトヲ何等ノ理由ニ依ルヲ問ハス宣明セラレタル者ニ對シテハ如何ナル時又ハ如何ナル場所ニ於テモ之ヲ獨逸國民ナリト主張スルコトナク、其ノ他ノ者ハ總テ之ヲ其ノ領土內ニ引取リ且第五十一條ノ地域ニ於ケル獨逸國民ノ財產ニ付テハ第十編(經濟條項)第二百九十七條及同第四款附屬書ノ規定ニ準據スヘキコトヲ約シタルモノトス

獨逸國民ニシテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナクシテ佛蘭西國政府ヨリ前記地域內ニ居住スルノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ同條ノ規定ヲ適用セス

第五十四條

本款附屬書一ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シタル者ハ本款ノ適用ニ付テハ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做ス

同附屬書二ニ揭クル者ハ其ノ佛蘭西國國籍ヲ請求シタル日ヨリ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做スヘク其ノ效力ハ千九百十八年十一月十一日ニ溯及ス其ノ

請求ヲ却下セラレタル者ハ却下ノ日ニ於テ其ノ特權ヲ喪失スヘシ
法人ニシテ佛蘭西國行政官憲又ハ司法裁判ニ依リ其ノ資格ヲ有スト認定セラレタルモノハ亦「アルザス、ロレーヌ」人タルノ資格ヲ享有スヘシ

第五十五條

第五十一條ノ地域ハ第九編(財政條項)第二百五十五條ニ規定スル條件ニ依リ一切ノ公債ヲ負擔スルコトナク佛蘭西國ニ復歸スヘシ

第五十六條

佛蘭西國ハ第九編(財政條項)第二百五十六條ノ規定ニ依リ第五十一條ノ地域内ニ於テ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ノ所有スル一切ノ財産及土地ヲ取得スヘキ之カ爲該地域ヲ讓渡スル各邦ニ對シ支拂ヲ爲シ又ハ債權ヲ認ムルコトナカルヘシ」本規定ハ獨逸帝國、獨逸各邦又ハ其ノ行政區劃ニ屬スル公私ノ財産タル一切ノ動産又ハ不動産竝一切ノ權利ニ之ヲ適用ス
帝室財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ獨逸君主ノ財産ハ之ヲ公財産ト同視スヘシ

第五十七條

獨逸國ハ其ノ版圖ノ他ノ部分ニ於テ均シク適用セラルルニ非サル極印其ノ他立法上又ハ行政上ノ措置ニ依リ本條約署名ノ日ニ於テ法定通用力ヲ有シ且其ノ日ニ於テ佛蘭西國政府カ所有スル獨逸國ノ金錢證券又ハ貨幣ノ法律上ノ價値又ハ償還力ヲ毀損スヘキ何等ノ手段ヲ執ルコトヲ得ス

第五十八條

戰時中「アルザス、ロレーヌ」又ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル公共團體カ獨逸帝國ノ爲獨逸國ノ法律ニ從ヒ支出シタル特別戰時費例ヘハ動員者ノ家族手當徵發軍隊宿舍料追放民救助費等ニ對シ「麻」ヲ以テスル辨償ノ條件ハ特別協定ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

右費用ニ充ツル爲獨逸帝國ニ對シ「アルザス、ロレーヌ」カ貢納スヘカリシ金額ハ前記金額ヲ決定スルニ當リ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ尤モ右貢納額ハ千九百十三年ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」ヨリ生シタル獨逸帝國ノ歲入ノ割合ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第五十九條

第五十一條ノ地域ニ於テ賦課シ得ヘキ各種ノ獨逸帝國ノ租稅賦課金及手數料ニシテ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ノ當時未徵收ニ係ルモノハ佛蘭西國政府自己ノ爲ニ之ヲ徵收スヘシ

第六十條

獨逸國政府ハ遲滯ナク「アルザス、ロレーヌ」人(自然人、法人及營造物法人)ニ對シ千九百十八年十一月十一日ニ於テ其ノ所有シタル一切ノ財産、權利及利益ニシテ獨逸國版圖内ニ存スルモノヲ還付スヘシ

第六十一條

獨逸國政府ハ休戰條約ニ規定シタル「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル財政條項ノ實行ヲ繼續シ且遲滯ナク之ヲ完了スルコトヲ約ス

第六十二條

獨逸國政府ハ千九百十八年十一月十一日迄ニ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ權利ヲ取得セラレ且其ノ支出カ獨逸帝國ノ豫算ノ負擔タリシ軍人及非軍人ノ一切ノ恩給費ヲ負擔スルコトヲ約ス

獨逸國政府ハ「アルザス、ロレーヌ」カ依然獨逸國法權ノ下ニ在リタル場合ニ於テハ「アルザス、ロレーヌ」居住者カ請求權ヲ有スヘキ「馬」計算ノ金額ヲ當該年度平均爲替相場ニ依リ「法」ヲ以テ支拂フ爲ニ必要ナル基金ヲ毎年提供スヘシ

第六十三條

同盟及聯合國ノ普通人民カ罰金ノ形式ニ於テ被リタル損害ノ賠償トシテ獨逸國カ第八編(賠償)ニ於テ承認シタル義務ニ付テハ第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ハ之ヲ前記人民ト同視スヘシ

第六十四條

萊因河及「モーゼル」河ノ管理ニ關スル規則ハ第十二編(港、水路及鐵道)ニ於テ之ヲ定ム

第六十五條

本條約實施後三週間以內ニ於テ「ストラスブルグ」及「ケール」ノ兩港ハ其ノ利用ノ爲七年ヲ期間トシテ一組織ヲ爲スヘシ

右組織ノ經理ハ萊因河中央委員會ノ任命シタル一名ノ經理長之ヲ執行スヘシ

該委員會ハ經理長ヲ罷免スルノ權能ヲ有スヘシ

右經理長ハ佛蘭西國國籍ヲ有スル者タルヘシ

經理長ハ「ストラスブルグ」ニ居住シ萊因河中央委員會ノ監督ヲ受クヘシ

第十二編(港、水路及鐵道)ノ規定ニ依リ前記兩港ニ自由地域ヲ設定スヘシ

佛蘭西國及獨逸國ハ其ノ特殊條約ニ依リ前記組織ニ其ノ財政ニ關スル細目ヲ規定スヘク右條約ハ萊因河中央委員會ノ承認ヲ經ヘシ

本條ノ關スル限リ「ケール」港ニハ同港ノ交通及出入列車ノ運轉ニ必要ナル全地域竝同港ノ設備ヲ構成スル港內、埠頭及鐵道、步廊、起重機、上屋及倉庫、地下室、昇降機及水力發電裝置ヲ包含ス

獨逸國政府ハ萊因河ノ左右兩岸ニ於テ「ケール」發著列車ノ一切ノ組立及入換作業カ能フ限リ完全ニ處理セラルルコトヲ保障スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

一切ノ財產權ハ保障セラルヘシ殊ニ前記兩港經理ノ爲佛蘭西又ハ「バーデン」ノ鐵道ノ財產權ハ何等毀損セラルルコトナカルヘシ

前記兩港ニ於テハ各國ノ國民、船舶及貨物ノ運送ニ關シ均等ノ待遇ヲ保障スヘシ」

佛蘭西國ハ第六年ノ終ニ當リ「ストラスブルグ」港改良進捗ノ程度カ尙此ノ假制

度ノ期間延長ヲ要スト思考スルトキハ之ヲ萊因河中央委員會ニ要求スルコトヲ得該委員會ハ三年ヲ超エサル期間右延長ヲ許可スルコトヲ得

前記ノ自由地域ハ延長ノ全期間之ヲ維持スヘシ

萊因河中央委員會カ第一次經理長ヲ任命スル迄ハ主タル同盟及聯合國ハ前記規定ニ依リ佛蘭西國人タル一名ノ假經理長ヲ任命スルコトヲ得

本條ノ關スル限リ萊因河中央委員會ノ決定ハ總テ表決ノ過半數ニ依ル

第六十六條

現ニ「アルザス、ロレーヌ」内ニ於テ萊因河上ニ架シタル鐵道橋梁其ノ他ノ橋梁ハ其ノ各部分及其ノ全長共佛蘭西國ノ財産ト爲ルヘク佛蘭西國ハ之カ維持ヲ確保スヘシ

第六十七條

佛蘭西國政府ハ獨逸帝國鐵道廳ノ管理ニ屬シ現ニ事業ヲ行ヒ又ハ建設中ニ在ル一切ノ鐵道ニ對スル獨逸帝國ノ一切ノ權利ニ付代位ス

右ノ規定ハ第五十一條ノ地域ニ於ケル鐵道及軌道ノ特許ニ關スル同帝國ノ權利ニ付亦之ヲ適用スヘシ

佛蘭西國ハ右代位ノ爲何等ノ支拂ヲ爲ササルヘシ

國境鐵道停車場ハ追テ締結スヘキ取極ニ依リ設置セラルヘシ但シ萊因河國境ニ於テハ停車場ハ同河ノ右岸ニ在ルヘキコトヲ玆ニ豫メ規定ス

第六十八條

第五十一條ノ地域ヨリ來ル天産物又ハ製造品ハ第十編（經濟條項）第一款第一章第二百六十八條ノ規定ニ依リ本條約實施後五年間獨逸國ノ關稅地域内ニ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ物品ノ性質及數量ヲ毎年命令ヲ以テ定メ其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告スヘシ

右ニ依リ毎年獨逸國内ニ仕向ケ得ル各種物品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

右五年ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マーセライズ」、瓦斯燒、撚掛又ハ糊付、艶付ノ如キ仕上工程ヲ經ル爲獨逸國ヨリ第五十一條ノ地域内ニ仕向ケラルル一切ノ種類及一切ノ狀態ニ於ケル織絲、織物其ノ他ノ織物原料又ハ織物製品ニ對シ獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸入ヲ自由ナラシメ一切ノ關稅其ノ他ノ課金（内國課稅金ヲ含ム）ヲ免除スヘシ

第六十九條

第五十一條ノ地域又ハ永久若ハ一時獨逸國ヨリ佛蘭西國ニ經營ヲ移シタル各種ノ施設ニ對シ從來電力ヲ供給シタル獨逸國版圖内ノ電氣供給中央作業場ハ千九百十八年十一月十一日現存ノ諸契約ニ相當スル消費高以内ノ供給ヲ本條約實施後十年間繼續スルノ義務アルモノトス

前記ノ供給ハ現存ノ契約ニ依リ且該作業場ニ對シ獨逸國民ノ支拂フ料金率ヨリ高カラサル率ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十條

佛蘭西國政府ハ第五十一條ノ地域ニ於テ左記事項ニ付テノ一切ノ新ナル獨逸ノ關與ヲ將來禁止スルノ權利ヲ留保ス

一　鐵道、航行可能水路竝水道、瓦斯及電力ノ配給等ノ如キ公物及公企業ノ經理又ハ經營

二　各種ノ鑛山及採石場ノ所有及之ニ關聯スル諸事業

三　冶金事業其ノ鑛山ノ經營ト關聯セサルモノト雖異ルコトナシ

第七十一條

第五十一條ノ地域ニ於テハ獨逸國ハ加里鹽取引ニ關スル千九百十年五月二十五日ノ法律及一般ニ加里鑛山ノ經營ニ對スル獨逸國諸團體ノ干與ニ關スル法規ニ基ク一切ノ權利ヲ千九百十八年十一月十一日以後自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス獨逸國ハ又右地域ニ於ケル他ノ生產物ニ關シ其ノ利益ノ爲存在スル取極又ハ法令ニ基ク一切ノ權利ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス

第七十二條

千九百十八年十一月十一日以前一方獨逸帝國及獨逸諸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノト他方「アルザス、ロレーヌ」ニ居住スル「アルザス、ロレーヌ」人トノ間ニ契約シタル金錢債務ニ關スル問題ノ解決ハ第十編(經濟條項)第三款ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ該條項中「戰前」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日以前」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘシ右解決ニ際シ適用スヘキ爲替相場ハ千九百十八年十一月十一日ヲ以テ終ル一月間ノ「ジュネーヴ」取引所ニ於ケル平均相場ニ依ルヘキモノトス

第十編(經濟條項)第三款規定ノ條件ニ依リ前記金錢債務ノ決濟ヲ爲ス爲第五十一條ノ地域內ニ特別ノ淸算所ヲ設置スルコトヲ得該淸算所ハ之ヲ同款附屬書一ノ「中央淸算所」ト看做スヘシ

第七十三條

獨逸國ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」人ノ私財產、權利及利益ハ第十編(經濟條項)第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十四條

佛蘭西國政府ハ千九百十八年十一月十一日ニ於テ獨逸國民又ハ獨逸國ノ管理ノ下ニ在ル會社カ第五十一條ノ地域內ニ於テ有スル一切ノ財產、權利及利益ヲ前記第五十三條末項ノ條件ノ下ニ保有淸算スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國ハ前記淸算ニ依リ財產、權利及利益ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ直接補償スヘシ

右淸算ノ殘高ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十五條

第十編(經濟條項)第五款ノ規定ニ拘ヲス千九百十八年十一月三十日ノ佛蘭西國ノ命令カ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ公布セラレタル日以前一方「アルザス、ロレーヌ」人(自然人又ハ法人)其ノ他ノ「アルザス、ロレーヌ」居住者ト他方獨逸帝國若ハ獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノトノ間ニ締結セラレタル一切ノ契約ハ休戰條約又ハ其ノ後ノ佛蘭西國法令ニ依リ履行ヲ停止セラレタルモノト雖其ノ效力ヲ持續スヘシ

然レトモ本條約實施ノ日以後六月以内ニ佛蘭西國政府ヨリ獨逸國ニ對シ一般利益ノ爲其ノ取消ヲ通告シタル契約ハ總テ取消サルヘキモノトス但シ千九百十八年十一月十一日以前該契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタル金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス取消ノ爲當事者ノ一方カ蒙シク損害ヲ被リタルトキハ該當事者ニ對シ衡平ナル補償ヲ與フヘシ右補償ハ專ラ使用資本額ニ依リテ之ヲ計算シ其ノ得ヘカリシ利潤ノ額ヲ計上セサルモノトス

「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル時效、出訴期間及失權ニ關シテハ第十編(經濟條項)第五款第三百條及第三百一條ノ規定ヲ適用ス但シ「千九百十八年十一月十一日」「戰時中」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル期間」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘキモノトス

第七十六條

「アルザス、ロレーヌ」人ノ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付テノ問題ハ第十編(經濟條項)第七款ノ一般規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ但シ獨逸國法令ニ從ヒ此ノ種ノ權利ヲ有スル「アルザス、ロレーヌ」人ハ獨逸國版圖内ニ於テ依然該權利ヲ完全ニ享有スルモノトス

第七十七條

獨逸國政府ハ老癈保險ノ目的ヲ以テ獨逸帝國又ハ之ニ從屬スル公私團體ニ於テ積立テタル一切ノ準備金中「ストラスブルグ」老癈保險基金ニ屬スヘキ部分ヲ佛蘭西國政府ニ交付スルコトヲ約ス

前項ノ規定ハ獨逸國内ニ積立テラレタル資金及準備金ニシテ本來前項ノ外ノ社會保險基金、鑛夫養老基金、「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ勤務スル諸官署及營造物法人ノ職員ノ爲ニ設ケラレタル他ノ養老機關ニ屬スヘキモノニ關シ竝「アルザス、ロレーヌ」居住ノ私的使用人タル被保險者ノ利益ノ爲ニ締結セラレタル契約ニ基キ伯林ニ於ケル私的使用人保險基金ノ負擔スル資金及準備金ニ關シ之ヲ適用スヘシ

前記交付ノ條件及手續ハ特別條約ニ依リ之ヲ決定ス

第七十八條

判決ノ執行、上訴及公訴ニ關シテハ左ノ規定ヲ適用ス

一　千九百十四年八月三日以後「アルザス、ロレーヌ」人相互間、「アルザス、ロレーヌ」人ト外國人トノ間又ハ外國人相互間ノ民事及商事事件ニ付下シタル一切ノ判決ニシテ千九百十八年十一月十一日前ニ上訴セラレサリシモノハ之ヲ確定ト認メ更ニ手續ヲ履ムコトナク直ニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノト認ム

「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國人間又ハ「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國ノ同盟國ノ臣民トノ間ノ事件ニ付下シタル判決ハ第五十一條ノ復歸地域ニ於ケル當該新裁判所ノ執行ノ命令カ發セラレタル場合ニ於テノミ之ヲ執行スルコトヲ得

二　「アルザス、ロレーヌ」人ニ對シ政治犯罪ニ付千九百十四年八月三日以後獨逸國裁判所ノ下シタル一切ノ判決ハ無效タルヘシ

三　「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對スル上訴ニ付千九百十八年十一月十一日以後「ライプチッヒ」帝國大審院ノ下シタル一切ノ判決ハ無效タルヘク且其ノ旨宣言セラルヘシ上記ノ判決アリタル裁判事件ニ關スル記錄ハ「アルザス、ロレーヌ」ノ當該裁判所ニ之ヲ返還スヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對シ帝國大審院ニ提起セラレタル一切ノ上訴ハ之ヲ停止スヘク其ノ關係記錄ハ直ニ之ヲ該事件決定ノ權限アル佛蘭西國大審院ニ移送スル爲前記條件ニ依リ返還スヘシ

四　千九百十八年十一月十一日以後本條約實施以前ニ犯シタル犯罪ニ對スル「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル一切ノ公訴ハ佛蘭西國官憲カ該地ニ於テ合法ニ公布シタル命令ニ依リ變更セラレサル限リ獨逸國法令ニ依リ之ヲ處理スヘシ

五　裁判上ノ權限、手續又ハ處理ニ關スル他ノ一切ノ問題ハ佛蘭西獨逸兩國間ノ特別條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第七十九條

本款附屬書ノ國籍ニ關スル規定ハ本款ノ規定ト同一ノ效力ヲ有スルモノト認ムヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル他ノ一切ノ問題ニシテ本款、本款附屬書又ハ本條約ノ一般條項中ニ規定セラレサルモノハ追テ佛蘭西獨逸兩國間ニ締結スル條約ニ依ルヘシ

附屬書

一

左記ノ者ハ千九百十八年十一月十一日以後當然佛蘭西國國籍ヲ回復スヘシ

一　千八百七十一年五月十日ノ佛蘭西獨逸兩國間條約ノ適用ノ結果佛蘭西國國籍ヲ喪失シ其ノ後獨逸國國籍以外ノ國籍ヲ取得セサリシ者

二　前號ニ掲ケタル者ノ嫡出又ハ私生ノ直系卑屬但シ父系直系尊屬中ニ千八百七十年七月十五日以後「アルザス、ロレーヌ」ニ移住シタル獨逸人ヲ有スル者ヲ除ク

三　「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シタル者ニシテ其ノ父母不明ナル者又ハ其ノ國籍不明ナル者

二

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ本條約實施後一年以内ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

一　本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復セサル者ニシテ其ノ直系尊屬中ニ一ニ掲ケル事情ニ因リ佛蘭西國國籍ヲ喪失シタル佛蘭西人タル男子又ハ女子ヲ有スル者

二　獨逸各邦ノ國民ニ非サル外國人ニシテ千九百十四年八月三日以前「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ取得シタル者

三　「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ千八百七十年七月十五日以前ヨリ同地方ニ住所ヲ有スル者又ハ其ノ直系尊屬ノ一人カ該期日以前ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有シ居リタル者

四　「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ本戰爭中同盟及聯合國軍隊ニ從軍シタル者及其ノ直系卑屬

五　千八百七十一年五月十日以前「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ外國人ヲ父母トシテ出生シタル者及其ノ直系卑屬

六　本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シ又ハ前各號ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ請求取得シタル者ノ配偶者

未成年者ノ法定代理人ハ該未成年者ノ爲佛蘭西國國籍請求權ヲ行使スルコトヲ得若シ該權利ニシテ行使セラレサルトキハ該未成年者ハ其ノ成年ニ達シタル後一年以内ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

第六號ニ掲クル場合ヲ除クノ外佛蘭西國官憲ハ個個ノ場合ニ付佛蘭西國國籍ノ請求ヲ拒否スルノ權利ヲ留保ス

三

本附屬書二ニ規定スル場合ヲ除クノ外「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ハ其ノ既ニ「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ有スル者ト雖「アルザス、ロレーヌ」ノ復歸ニ因リテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナシ

右獨逸人ハ歸化ニ依リテノミ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトヲ得但シ千九百十四年八月三日以前ヨリ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スルコトヲ要シ且千九百十八年十一月十一日以後三年間繼續シテ該復歸地域内ニ居住シタルコトノ證

據ヲ提出スルコトヲ要ス

佛蘭西國歸化ノ請求ヲ爲シタル日以後ハ前記獨逸人ニ對スル外交官及領事官ニ依ル保護ハ佛蘭西國專ラ其ノ責ニ任スヘシ

四

佛蘭西國政府ハ佛蘭西國國籍回復權ノ實行ニ要スル手續竝本附屬書規定ノ國籍請求及歸化請求ノ許否ニ關スル條件ヲ定ムヘシ

第六款

墺地利國

第八十條

獨逸國ハ墺地利國ト主タル同盟及聯合國トノ條約ニ依リ決定セラルヘキ國境內ニ於ケル墺地利國ノ獨立ヲ承認シ且嚴ニ之ヲ尊重スヘシ獨逸國ハ國際聯盟理事會ノ同意アル場合ヲ除クノ外該獨立ノ動カスヘカラサルモノナルコトヲ承諾ス

第七款

「チェッコ、スロヴァキア」國

第八十一條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「カルパート」山脈南方「ルテーヌ」人ノ自治地域ヲ含ム「チェッコ、スロヴァキア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且之ト共ニ獨逸國ハ主タル同盟及聯合國竝他ノ利害關係國ノ決定シタル「チェッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ承認ス

第八十二條

千九百十四年八月三日ニ於ケル墺地利洪牙利國ト獨逸帝國トノ舊國境ハ獨逸國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ國境ヲ構成スヘシ

第八十三條

獨逸國ハ「シレジア」ノ地域中左ノ區域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ拋棄ス

「カッチェル」ノ南東方約二吉米ニ於ケル「レオブシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ境界上ノ地點ヨリ發シ

右兩郡間ノ境界ニ從ヒ

次テ「ラティボール」「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河上ノ一點

ニ至ル迄獨逸及墺地利洪牙利兩國ノ舊境界ニ依リ

次テ北西方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ルノ間

「クラノウィッツ」ノ西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國間ノ國境線ヲ實査ノ上確定スル爲本條約實施後十五日ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル五名、波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

前記委員會ノ決議ハ過半數ニ依リ之ヲ決シ且關係當事國ヲ拘束スヘシ

獨逸國ハ獨逸波蘭兩國ノ國境確定ノ結果「レオブシュッツ」郡中左ノ境界線內ニ在ル部分カ獨逸國ヨリ隔離シタル場合ニ於テ此ノ部分ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ拋棄スルコトヲ約ス

「レオブシュッツ」ノ西方約五吉米ニ於ケル墺地利國舊國境凸出部ノ南東端ヨリ南方ニ進ミ「レオブシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ルノ間

獨逸及墺地利洪牙利兩國ノ舊國境ニ依リ

次テ北方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄「レオブシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ行政境界ニ依リ

次テ北西方ニ進ミ前記出發點ニ至ルノ間

「カッチェル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

第八十四條

「ナェッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然「ナェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

第八十五條

「ナェッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以內ニ於テ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ獨逸國內ニ定住スル獨逸國民タル「ナェッコ、スロヴァキア」人ハ前同樣「ナェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前ニ住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土內ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

獨逸國民タル「ナェッコ、スロヴァキア」人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間內ニ「ナェッコ、スロヴァキア」國ノ定ムル要件ニ從ヒ「ナェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脫スルノ權利ヲ有スヘシ

第八十六條

「ナェッコ、スロヴァキア」國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諸ス

「ナェッコ、スロヴァキア」國ハ尙他ノ國民ニ對シ通過ノ自由ト通商ノ衡平ナル取扱トヲ保護スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諸ス

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「ナェッコ、スロヴァキア」國カ「シレジア」ノ地域ヲ其ノ主權ノ下ニ置キタル結果負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記領土ノ割讓ノ結果生スヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リテ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第八款

波蘭國

第八十七條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ波蘭國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且波羅的海「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄第二編(獨逸國ノ境界)第二十七條ニ定メタル獨逸國ノ東方國境、次ニ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ上部「シレジア」ノ北方境界カ鋭角ヲ爲ス箇所ニ至ル線、次ニ獨逸及露西亞兩國間ノ舊國境トノ接合點ニ至ル迄右上部「シレジア」境界、次ニ「ニーメン」河ノ河流トノ交叉點ニ至ル迄右兩國間ノ舊國境竝前揭第二編第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北境ニ依リ圍繞セラルル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ拋棄ス

本條ノ規定ハ第二編獨逸國ノ境界第二十八條及本編第十一款(「ダンチッヒ」)第百條ニ定メタル東普魯西及「ダンチッヒ」自由市ノ地域ニハ之ヲ適用セス

波蘭國ノ境界ニシテ本條約ニ於テ定メサルモノハ主タル同盟及聯合國追テ之ヲ決定スヘシ

波蘭國ト獨逸國トノ國境線ヲ實査劃定スル爲本條約實施後十五日以內ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル獨逸國及波蘭國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ之ヲ決シ且當事國ヲ拘束スヘシ

第八十八條

上部「シレジア」中左記境界內ニ在ル部分ニ於テハ住民ヲシテ其ノ獨逸國又ハ波蘭國ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルヤヲ投票ニ依リ表示セシムヘシ

「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊墺地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ヨリ獨逸國及墺地利國間ノ舊國境ニ依リ「レオブシュッツ」「ラティボール」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ北方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄

「レオブシュッツ」「ラティボール」兩郡間ノ境界ニ依ル

次テ南東方ニ向ヒ「ラティボール」「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河河流上ノ一點ニ至ルノ間

「クラノヴィッツ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ獨逸國及墺地利國間ノ舊國境、次テ獨逸國及露西亞國間ノ舊境界ニ依リ「ポズナニア」及上部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ該行政境界ニ依リ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ西方ニ向ヒ右行政境界カ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ鋭角ヲ以テ

南東方ニ轉スル地點ニ至ルノ間

上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依ル

次テ西方ニ向ヒ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ實査ノ上定メラルヘキ地點ニ至ルノ間

「クライン、ヘンネルスドルフ」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ト「ステッテル」「カールス ルーエ」街道トノ交叉點ニ至ルノ間

「ヘンネルスドルフ」「ボルコウィッツ」「ノルダウ」「スタイネルスドルフ」及「ダムメル」ノ西方竝「ストレーリッツ」「ナッサデル」「エッケルスドルフ」「シュウィルツ」及「ステッテル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依リ「ファルケンベルグ」郡ノ東境トノ接合點ニ至ル

次テ「ファルケンベルグ」郡ノ東境ニ依リ「プシネ」ノ東方三吉米ニ位スル凸出部地點ニ至ル

次テ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ位スル舊墺地利國領「シレジア」州凸出部ノ北端ニ至ルノ間

「ツュルツ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

前記ノ人民一般投票ノ執行及其ノ效果ニ關スル制度ハ本條附屬書ニ之ヲ規定

ス

波蘭國及獨逸國ノ政府ハ本條附屬書ニ規定スル制度ノ存續中及該地方ノ終局ノ地位ノ確定スル迄上部「シレジア」ニ於テ爲シタル一切ノ政治上ノ行動ニ對シ相互ニ其ノ領土ニ於テ訴追ヲ爲サス且何等ノ例外的手續ヲ執ラサルコトヲ茲ニ約ス

獨逸國ハ上部「シレジア」中人民一般投票ノ結果トシテ主タル同盟及聯合國ノ定メタル境界線內ノ區域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ茲ニ拋棄ス

附屬書

一

獨逸國軍隊及本附屬書二ノ規定ニ依リ設置シタル委員會ノ指定スル獨逸國官吏ハ本條約實施後十五日以內ニ人民一般投票區域ヲ撤退スヘシ右軍隊及官吏ハ其ノ撤退完了ニ至ル迄形式ノ如何ヲ問ハス金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ物質上ノ利益ヲ害スル虞アル一切ノ行爲ヲ爲スコトナカルヘシ

右區域ニ於テ設立シタル勞兵會ハ前記期間內ニ解散スヘク同會會員中他地方人ニシテ本條約實施ノ時ニ其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後

其ノ職務ヲ罷メタル者ハ撤退スヘシ

右區域ニ於テ其ノ住民ノ組織シタル一切ノ軍事的及准軍事的團體ハ直ニ之ヲ解隊セシムヘシ右軍事團體ノ團員ニシテ該區域内ニ住所ヲ有セサル者ハ退去セシムヘシ

二

人民一般投票區域ハ直ニ北米合衆國、佛蘭西國、英帝國及伊太利國ノ任命スヘキ四名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置カルヘシ同區域ハ同盟及聯合國ニ屬スル軍隊ヲ以テ之ヲ占領スヘク獨逸國政府ハ該軍隊ヲ上部「シレシア」ニ輸送スルニ付便宜ヲ供スヘキコトヲ約ス

三

右委員會ハ立法及課稅ニ關スル場合ヲ除クノ外獨逸國又ハ普魯西政府ノ行使シタル一切ノ權能ヲ有シ且州及縣ノ行政廳ニ代ルヘシ

本項ニ依リ付與セラレタル權能ニ關シ解釋ヲ下シ且如何ナル範圍ニ於テ其ノ權能ヲ行使シ又ハ之カ行使ヲ現存官憲ニ委スヘキカヲ決定スルハ右委員會ノ權限ニ屬スルモノトス

現行法律及現行租稅ノ變更ハ委員會ノ同意ヲ經ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

委員會ハ其ノ使用ニ供セラレタル軍隊ノ助力ニ依リ及其ノ必要ト認ムル限度ニ於テ地方住民中ヨリ募集シタル憲兵ヲ以テ秩序ヲ維持スヘシ

委員會ハ速ニ撤退獨逸國官吏ノ補充ニ力メ且必要ナル場合ニ於テハ自ラ獨逸國官憲ノ撤退ヲ命シ且必要ナル地方官憲ノ補充ヲ爲スヘシ

委員會ハ投票ノ自由、公正及祕密ヲ確保スル爲其ノ適當ト思量スル一切ノ手段ヲ執ルヘク殊ニ方法ノ如何ニ拘ラス贈賄又ハ威嚇ノ手段ニ依リ人民一般投票ノ結果ヲ紛更セムト企テタル者ノ追放ヲ命スルノ權利ヲ有スヘシ

委員會ハ本條項ノ實施ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スル全權ヲ有スルモノトス委員會ハ其ノ地方住民中ヨリ選任シタル專門事項顧問ヲ以テ其ノ輔佐トスヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依ルヘシ

四

投票ハ主タル同盟及聯合國ノ定ムヘキ期日ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ前記區域ニ委員會ヲ設置シタル時ヨリ六月以後十八月以前ナルコトヲ要ス

投票權ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與ス

(イ) 人民一般投票施行ノ年ノ一月一日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ

(ロ) 人民一般投票區域内ニ出生シタル者、千九百十九年一月一日前ニ於テ委員會ノ決定スヘキ日以來同區域内ニ住所ヲ有スル者又ハ獨逸國官憲ニ依リ追放セラレ右地域ニ住所ヲ有セサル者

政治犯罪ニ付有罪ノ宣告ヲ受ケタル者モ其ノ投票權ヲ行使スルコトヲ得

投票ハ各自ノ住所ヲ有スル市町村ニ於テ、投票區域内ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ多數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

五

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及上部「シレジア」ニ於テ獨逸國ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望竝該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘシ

六

主タル同盟及聯合國ニ於テ國境ヲ確定シタル時ハ國際委員會ハ直ニ獨逸國官憲ニ對シ獨逸國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以内ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス

波蘭國政府ハ同期間内ニ委員會ノ指定シタル方法ヲ以テ波蘭國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス

委員會ノ權能ハ獨逸國及波蘭國ノ官憲カ各當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

占領軍ノ費用及委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス同區域ノ負擔トス

第八十九條

波蘭國ハ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ニ運送セラルル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ對シ波蘭國領土(領水ヲ含ム)通過ノ自由ヲ許與シ且便宜、制限其ノ他一切ノ事項ニ付少クトモ波蘭國又ハ之ヨリ有利ナル待遇ヲ受クル國ノ國民及此等ノ國ヲ原産地、輸入地若ハ出發地ト爲シ又ハ此等ノ國ノ國民ノ所有ニ屬スル貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ト同等ノ待遇ヲ爲スヘキコトヲ約ス

通過中ノ貨物ハ一切ノ關稅其ノ他之ニ類スル稅ヲ免除セラルヘシ

通過ノ自由ハ第九十八條ニ掲クル條約ヲ以テ定メタル條件ノ下ニ電信及電話ニ及フヘシ

第九十條

波蘭國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡サレタル上部「シレジア」ノ鑛産物ノ獨逸國ヘノ輸出ヲ十五年間許スヘキコトヲ約ス

右鑛産物ハ一切ノ輸出稅其ノ他ノ課金又ハ輸出制限ヲ受クルコトナカルヘシ」

波蘭國ハ波蘭國又ハ他ノ各國ノ購買者ニ同樣ノ事情ノ下ニ於テ賣却セラルル同種產物ニ對スルト同等ニ有利ナル條件ヲ以テ前記鑛產物カ獨逸國ノ購買者ニ賣却セラルルコトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執ルコトニ同意ス

第九十一條

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然波蘭國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

尤モ千九百八年一月一日以後ニ於テ右地域ニ居住スルニ至リタル獨逸國民又ハ其ノ子孫ハ波蘭國國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以內ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

獨逸國ニ定住スル獨逸國民タル十八歲以上ノ波蘭人ハ前同樣波蘭國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ得

前記ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土內ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス

各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅、輸入稅又ハ課金ヲ課スルコトヲ得ス

獨逸國民タル波蘭人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間內ニ波蘭國ノ定ムル要件ニ從ヒ波蘭國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脫スルノ權利ヲ有スヘシ」

上部「シレジア」中人民一般投票ニ付シタル地域ニ於テハ本條ノ規定ハ右地域ノ所屬確定ノ時ヨリノミ其ノ效力ヲ生スヘシ

第九十二條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ波蘭國カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

右財政上ノ義務中前記第二百五十四條ニ依リ決定スル賠償委員會ノ判定ニ依レハ獨逸國及普魯西ノ政府カ波蘭國ニ於ケル獨逸殖民ノ爲ニ執リタル措置ニ因リ發生シタル部分ハ波蘭國ノ分擔額ヨリ之ヲ除外スヘシ

領土ノ移轉ト共ニ波蘭國ニ引渡スヘキ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル財產及所有物ノ價額ヲ第二百五十六條ニ依リ決定スルニ當リテハ賠償委員會ハ舊波蘭王國ニ屬シタル建物、森林其ノ他ノ國有財產ヲ該評價額ヨリ除外スヘク波蘭國ハ一切ノ費用及賦課ヲ負フコトナク此等ノ財產ヲ取得スヘシ

本條約ニ依リ讓渡サレ且確定的ニ波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル獨逸國

ノ領土ニ於ケル獨逸國民ノ財產、權利及利益ニ付テハ波蘭國政府ハ左ノ規定ニ依ルニ非サレハ第二百九十七條ノ清算ヲ行フコトヲ得ス

一　清算殘高ハ直接所有者ニ之ヲ支拂フヘシ

二　所有者カ第十編(經濟條項)第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ波蘭國政府ノ一般法令ノ規定外ニ亙リテ執リタル措置又ハ賣却條件カ取得價格ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ波蘭國政府ヲシテ所有者ニ衡平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判定ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

前記領土ノ讓渡ヨリ生スル諸問題ニシテ本條約ニ規定セサルモノハ總テ今後ノ取極ニ依リテ之ヲ規定スヘシ

第九十三條

波蘭國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

波蘭國ハ尙他ノ國民ニ對シ通商ノ衡平ナル取扱トヲ保護スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ此等諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

第九款

東普魯西

第九十四條

第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條ニ掲クル東普魯西ノ南方境界ト左記ノ線トノ間ニ在ル地域ニ於テハ住民ヲシテ投票ニ依リ其ノ所屬ヲ希望スル國ヲ指示セシムヘシ

「アレンスタイン」縣ノ西方及北方境界ニ從ヒ「オレツコ」及「アンゲルブルグ」兩郡間ノ境界線トノ接合點ニ至リ次テ「オレツコ」郡ノ北方境界ニ從ヒ東普魯西ノ舊境界トノ接合點ニ至ル

第九十五條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以內ニ前揭地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ

前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負ヒ尙此等規定ノ施行ニ因リテ生スヘキ

各問題ヲ決定スルニ必要ナル一切ノ權限ヲ有ス委員會ハ地方住民中ヨリ其ノ選任シタル吏員ヲシテ其ノ職務ノ實行ヲ幇助セシムル爲必要ナル措置ヲ講スヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

左記ニ該當スル者ハ男女ノ別ナク總テ投票ノ權利ヲ有ス

(イ) 本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ且

(ロ) 投票ヲ行フヘキ地域內ニ出生シタル者又ハ委員會ノ決定スヘキ日以來同地域內ニ定住シタル者

投票ハ各自ノ定住スル市町村ニ於テ、右地域內ニ定住セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見中ニハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望及該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノトス主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ國境ヲ確定スヘシ

主タル同盟及聯合國ニ依リ確定セラレタル境界線ニシテ第九十四條ニ揭クル地域ノ一部分ヲ東普魯西ヨリ除外スルモノナルトキハ獨逸國カ第八十七條ノ規定ニ依リ波蘭國ノ爲ニスル權利拋棄ハ右除外セラレタル地方ニ及フヘシ

主タル同盟及聯合國ニ於テ境界線ヲ確定シタルトキハ國際委員會ハ直ニ東普魯西ノ施政ニ任スヘキ官憲ニ對シ該境界線ノ北方ニ當ル地域ノ施政ヲ引繼ク旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以內ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ニ著手スヘシ波蘭國政府ハ同期間內ニ委員會ノ指定ニ從ヒ同境界線ノ南方ニ當ル地域ノ施政ノ引繼ニ著手スルコトヲ要ス委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス東普魯西ハ主タル同盟及聯合國カ決定スヘキ不足金ノ割當額ヲ負擔スヘシ

第九十六條

「ストゥーム」及「ローゼンベルグ」兩郡「ノガツト」河ノ東ニ在ル「マリエンブルグ」郡ノ一部竝「ヴィスチュラ」河東方ノ「マリエンウェルデル」郡ノ一部ヲ包含スル地域ニ於テハ住民ヲシテ市町村毎ニ施行セラルヘキ投票ニ依リ該地域ノ各市町村カ波蘭國又ハ東普魯西ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルカヲ表示セシムヘシ

第九十七條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以內ニ第九十六條ニ揭クル地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發

及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ

前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ必要ノ場合ニ於テハ所要兵力ノ支持ヲ受クヘク施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負フヘシ委員會ハ能フ限リ「アレンスタイン」地方ニ於ケル人民一般投票ニ關スル本條約ノ規定ニ從フヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票ノ施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ境界トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望竝該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノトス主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ境界ヲ確定スヘシ但シ如何ナル場合ニ於テモ「ヴィスチュラ」河沿岸區域全部ニ亙リ同河ニ對スル完全ナル管理權ヲ波蘭國ニ保有セシムヘク該管理權ハ「ヴィスチュラ」河ノ取締及改良ニ必要ナル範圍ニ於テ其ノ東岸一帶ニ及フヘシ

獨逸國ハ引續キ獨逸領タル前記地域中ノ何レノ部分ニ於テモ又如何ナル時ニ於テモ築城ヲ構設セサルコトヲ約ス

主タル同盟及聯合國ハ之ト同時ニ東普魯西ノ人民ニ對シ充分ニ且衡平ナル條件ノ下ニ該人民竝其ノ通商及船舶ノ爲「ヴィスチュラ」河ニ往來シ及之ヲ使用スルコトヲ確保スヘキ規則ヲ設クヘシ

國境ノ確定及前記ノ規則ハ一切ノ當事國ヲ拘束ス

委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

第九十八條

獨逸國及波蘭國ハ本條約實施後一年以內ニ一方ニ於テハ獨逸國ニ對シ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ノ交通ノ爲其ノ間ニ介在スル波蘭國領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保シ又他方ニ於テハ波蘭國ニ對シ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ノ交通ノ爲「ヴィスチュラ」河ノ右岸ニ於テ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ介在スルコトアルヘキ獨逸國ノ領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保スルノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スヘク且其ノ條項ニ關シ爭議アルトキハ國際聯盟理事會ヲシテ之ヲ決定セシムヘキコトヲ約ス

第十款

「メーメル」

第九十九條

獨逸國ハ波羅的海、第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北東方國境及獨逸露西亞兩國間ノ舊國境ヲ以テ包括シタル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

獨逸國ハ右地域ニ關シ殊ニ其ノ住民ノ國籍ニ付主タル同盟及聯合國ノ爲シタル決定ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第十一款

「ダンチッヒ」自由市

第百條

獨逸國ハ左記境界內ノ地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

波羅的海ヨリ南方ニ進ミ「ノガット」河及「ヴィスチュラ」河(「ワイクセル」河)主要航行水道ノ會合點ニ至ルノ間

第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條ニ規定スル東普魯西ノ境界ニ依ル

次テ「ヴィスチュラ」河主要航行水道ヲ下リ「ディルシャウ」橋ノ北方約六吉米半ノ地點ニ至ル

次テ北西方ニ向ヒ「ギュットラント」教會堂ノ南東方一吉米半標高五ノ地點ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ略西方ニ向ヒ「シェーネック」ノ北東方八吉米半ニ於ケル「ベーレント」郡境界ノ凸出部ニ至ルノ間

「ミュールバンツ」ノ北方「ヲムベルチュ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ペーレント」郡ノ境界ヲ西方ニ進ミ「シェーネック」ノ北北西方六吉米ノ四入部ニ至ル

次テ「ロンケネル、ゼー」ノ中央線上ノ一點ニ至ルノ間

「ノイ、フィーツ」及「シャタルピ」ノ北方「バーレンヒュッテ」及「ロンケン」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ロンケネル、ゼー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ「ポレンナーネル、ゼー」ノ南端ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポレンナーネル、ゼー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「コリープケン」教會堂ノ南方約一吉米ニ於ケル「ダンケッヒ」ヲ「ノイスタット」鐵道カ小河ヲ橫斷スル地點ニ至ルノ間

「カメーレン」「クリッサウ」「フィドリン」「ズルミン」(「リヒトホーフ」)「マッテルン」「シェーフェライ」ノ南東方ヲ過キ「ノイエンドルフ」「マルシャウ」「ツァピールケン」「ホッホ、ゲルピン」「クライン、ゲルピン」「プルフェルミュール」「レンネベルグ」及「オリヴァ」「ツォポット」兩市街ノ北西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ前記小河ノ河流ニ從ヒ波羅的海ニ至ル

本條ノ境界ハ本條約附屬十萬分一獨逸地圖(地圖第三號)ニ之ヲ表示ス

第百一條

市町村ノ現在ノ境界ヲ能フ限リ參酌シテ實査ノ上前記地域ノ境界ヲ劃定セムカ爲本條約實施後十五日以內ニ委員會ヲ設置スヘシ該委員會ハ主タル同盟及聯合國ノ任命スル三名委員長タル高級委員ヲ含ム)、獨逸國及波蘭國ノ任命スル各一名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二條

主タル同盟及聯合國ハ「ダンケッヒ」市ヲ第百條ニ揭クル爾餘ノ地域ト共ニ自由市ト爲スコトヲ約ス右自由市ハ國際聯盟ノ保護ノ下ニ置カルヘシ

第百三條

「ダンケッヒ」自由市ノ憲法ハ該自由市ノ正當ニ任命スル代表者ニ於テ國際聯盟ノ任命スル高級委員ト協議ノ上之ヲ起草スヘシ該憲法ハ國際聯盟之ヲ保障スヘシ

高級委員ハ本條約又ハ之ニ基ク協定若ハ取極ニ關シ波蘭國ト「ダンケッヒ」自由市トノ間ニ發生スル一切ノ紛議ヲ第一次ニ處理スルノ任務ヲ付託セラルヘシ

高級委員ハ「ダンケッヒ」ニ駐在スヘシ

第百四條

主タル同盟及聯合國ハ波蘭國政府ト「ダンケッヒ」自由市ト同時ニ實施スヘキ左ノ目的ヲ有スル條約ノ商議ヲ爲スコトヲ約ス

一 「ダンケッヒ」自由市ヲ波蘭國關稅地域ニ編入シ且同港ニ一ノ自由地域ヲ

設定スルコト

二　自由市地域内ニ存スル波蘭國ノ輸出入品ノ爲必要ナル一切ノ水路、船渠、泊船渠、埠頭其ノ他ノ工作物ノ自由使用ヲ波蘭國ニ對シ何等ノ制限ナク保障スルコト

三　波蘭國ニ對シ「ヴィスチュラ」河及右自由市内ニ在ル鐵道系全部竝「ダンチッヒ」波蘭國間ノ郵便、電信及電話ノ管理經營權ヲ保障スルコト但シ主トシテ同自由市ノ用ニ供セラルル市街鐵道其ノ他ノ鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

四　波蘭國ニ對シ水路、船渠、泊船渠、埠頭、鐵道其ノ他本條ニ揭クル工作物及交通機關ヲ改良シ發達セシムルノ權利竝右目的ノ爲必要ナル土地其ノ他ノ財産ヲ適當ナル手續ニ依リ賃借又ハ買收スルノ權利ヲ保障スルコト

五　「ダンチッヒ」自由市内ニ於テ波蘭國人民及波蘭系ニ屬シ又ハ波蘭語ヲ用ヰル人民ニ不利益ナル差別待遇ヲ爲ササル規定ヲ設クルコト

六　波蘭國政府ヲシテ「ダンチッヒ」自由市ノ外交關係ヲ處理シ且外國ニ在ル該市人民ノ外交上ノ保護ニ當ラシムルノ規定ヲ設クルコト

第百五條

第百條ニ揭クル地域内ニ定住スル獨逸國民ハ本條約實施ト同時ニ「ダンチッヒ」自由市ノ人民ト爲ル爲當然獨逸國國籍ヲ離脫スヘシ

第百六條

第百條ニ揭クル地域内ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年内ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ「ダンチッヒ」自由市地域内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得右ニ關シテハ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スヘカラス

第百七條

「ダンチッヒ」自由市ノ地域内ニ存スル一切ノ財産ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ主タル同盟及聯合國ノ衡平ナリト思惟スル所ニ從ヒ「ダンチッヒ」自由市又ハ波蘭國ニ之ヲ引渡ス爲右同盟及聯合國ニ移轉ス

第百八條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「ダンチッヒ」自由市カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百條ニ揭クル領土ノ讓渡ヨリ生スル他ノ一切ノ問題ハ今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十二款

「シュレスウィヒ」

第百九條

獨逸丁抹兩國間ノ國境ハ住民ノ希望ニ從ヒ之ヲ決定ス

此ノ目的ノ爲東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線(本條約附屬地圖第四號ノ褐色線)ノ北方ニ位スル舊獨逸帝國版圖內ノ住民ヲシテ本條第一號乃至第四號ノ條件ノ下ニ行フヘキ投票ニ依リ其ノ希望ヲ表示セシムヘシ

「フレンスブルグ」ノ東北東方約十三吉米ニ於テ波羅的海ヲ離レ南西方ニ走リ「シグム」「リングスベルグ」「ムンクブラルップ」「アデルビー」「タストルップ」「ヤルプルンド」「オーヴェルゼー」ノ南東方及「ラングバリックホルツ」「ヨングバリック」「ベンストルップ」「リュルシャウ」「ウェゼビー」「クラインウォルストルップ」「グロース、ゾルト」ノ北西方ヲ過キ

次テ西方ニ向ヒ「フレーループ」ノ南方「ヴァンデルップ」ノ北方ヲ過キ

次テ南西方ニ進ミ「オックスルンド」「スティーグルンド」及「オステナウ」ノ南東方及「ワンデルップ」「コルンド」街道上ニ在ル諸村ノ北西方ヲ過キ

次テ北西方ニ向ヒ「レーヴェンステット」「ヨルデルンド」「ゴルデルンド」ノ南西方及「コルケルハイデ」「ヘーゲル」ノ北東方ヲ過キ「ゾホルメル、アウ」ト「トンデルン」郡ノ南境トノ會合點ニ於ケル「ゾホルメル、アウ」ノ彎曲部ニ至リ

次テ該境界ヲ進ミ北海ニ至リ

次テ「フォール」「アムルム」兩島ノ南方及「オランド」「ランゲネス」兩島ノ北方ヲ過ク

一　獨逸國軍隊及官憲(州知事、縣知事、郡長、警察區長、市長ヲ含ム)ハ本條約實施後十日以內ニ前記境界線ノ北ニ位スル地帶ヨリ撤退スヘシ

右地帶內ニ設立セラレタル勞兵會ハ同期間內ニ解散スヘシ該會員ニシテ他ノ地方ニ出生シ且本條約實施ノ際其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後其ノ職務ヲ去リタル者ハ共ニ右地帶ヨリ撤退セシムヘシ

前記地帶ハ直ニ之ヲ五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員ノ中三名ハ主タル同盟及聯合國之ヲ任命シ諸威國政府及瑞典國政府及聯合國之ヲ任命シ其ノ各一名ノ任命ヲ委囑スヘシ右兩國政府任命ヲ爲ササルトキハ右二名ノ委員ハ主タル同盟及聯合國之ヲ選任ス

右委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ必要ノ場合ニ於テハ所要兵力ノ援助ヲ受クヘシ殊ニ委員會ハ撤退シタル獨逸國官憲ノ地位ヲ充ス爲直ニ措置ヲ講シ且必要アルトキハ自ラ獨逸國官憲ニ撤退ヲ命シ及必要ナル地方官憲ノ地位ヲ充スヘシ委員會ハ投票ノ自由公正及祕密ヲ確保スル爲其ノ適當ト認ムル一切ノ手段ヲ執ルヘシ委員會ハ地方人民中ヨリ選任シタル獨逸人及丁抹

人ノ專門事項顧問ヲ其ノ輔佐トスヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル
委員會ノ經費及人民一般投票ニ要シタル經費ハ獨逸國其ノ半額ヲ支拂フヘシ

二　投票ノ權利ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與ス

(イ)　本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ且

(ロ)　人民一般投票ヲ行フ地帶ニ出生シタル者千九百年一月一日前ヨリ該地帶內ニ住所ヲ有セサル者

各人ハ其ノ住所地又ハ出生地タル市町村ニ於テ投票ヲ行フヘシ

人民一般投票ヲ行フ「シュレスウィヒ」ノ地帶ニ出生シタル獨逸國陸軍ノ軍人、將校又ハ下士卒ハ其ノ鄉里ニ於ケル投票ニ參加スル爲歸鄉スルノ機會ヲ與ヘラルヘシ

三　撤退地帶中東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線(本條約附屬地圖第四號ノ赤線)ノ北方ニ位スル區域內ニ於ケル前記ノ投票ハ獨逸國ノ軍隊及官憲カ該地方ヲ撤退シタル後三週間以內ニ之ヲ行フヘシ

「アルゼン」島ノ南方ヲ過キ「フレンスブルグ、フィヨールド」ノ中央線ヲ進ミ次テ「フレンスブルグ」ノ北方約六吉米ニ於テ「フィヨールド」ヲ離レ「クップェルミュー」ヲ過ル小河ノ河流ヲ溯リ「ニーフース」北方ノ地點ニ至リ

次テ「パットブルグ」「エルンド」ノ北方及「フレスレー」ノ南方ヲ過キ「トンデルン」郡ノ東境ト舊「スロッグス」及「クェール」管轄區域(「スロッグス、ヘレッド」)間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ前記舊管轄區域間ノ境界ヲ進ミ其ノ「シャイデベック」河ト會合スル所ニ至リ

次テ「シャイデベック」(「アルテ、アウ」)、「シュードル、アウ」及「ウィード、アウ」ノ河流ニ從ヒ「ルッテビュル」ノ西方約千五百米ニ於テ「ウィード、アウ」ノ河流ニ彎曲スル地點ニ至リ

次テ西北西方ニ向ヒ「ジールトフト」ノ北方ニ於テ北海ニ至リ

次テ「ジルト」島ノ北方ヲ過ク

投票ノ結果ハ右區域ノ全部ニ於テ行ヒタル投票ノ過半數ヲ以テ決スヘシ此ノ結果ハ委員會直ニ之ヲ主タル同盟及聯合國ニ通告シ且公表スヘシ

投票ノ結果右地域ヲ再ヒ丁抹王國ニ合併スルヲ可トスルニ至リタルトキハ丁抹國政府ハ委員會ノ同意ヲ經テ前記公表ノ後直ニ其ノ軍隊及行政官憲ヲ以テ之カ占領ヲ行フノ權利ヲ有ス

四　撤退地帶中前號ノ區域ノ南方「フレンスブルグ」ヨリ十三吉米ニ於テ波羅的海ヲ離レ「オランド」「ランゲネス」兩島ノ北方ニ至ル線ノ北方ニ位スル區域ニ於ケル投票ハ第一區域ニ於ケル人民一般投票ノ後五週間以內ニ於テ之ヲ行

フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百十條

實査劃定ニ至ル迄國境線ハ投票ノ結果ニ基キ且國際委員會ニ依リ提議セラレタル境界線ニ依リ更ニ當該地方ノ地理上及經濟上ノ特殊ノ事情ヲ參酌シテ主タル同盟及聯合國之ヲ決定ス

右決定ノ後ハ丁抹國政府ハ其ノ文武官憲ヲ以テ前記地域ノ占領ヲ行フコトヲ得又獨逸國政府ハ曩ニ撤退シタル獨逸國ノ文武官憲ヲ前記國境線迄復歸セシムルコトヲ得

獨逸國ハ右ノ規定ニ依リ決定セラレタル國境線ノ北方ニ在ル地域ニ對スル主權ノ全部ヲ茲ニ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ確實ニ拋棄ス主タル同盟及聯合國ハ該地域ヲ丁抹國ニ引渡スヘキモノトス

第百十一條

國境線ノ實査劃定ノ爲投票ノ最終結果判明ノ日ヨリ十五日以内ニ七人ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ組織スヘシ該委員ノ中五名ハ主タル同盟及聯合國、一名ハ丁抹國、他ノ一名ハ獨逸國之ヲ指名スヘシ

右委員會ノ決議ハ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

第百十二條

丁抹國ニ還付セラレタル地域ノ住民ハ總テ當然丁抹國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

尤モ千九百十八年十月一日以後右地域内ニ定住スルニ至リタル者ハ丁抹國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ丁抹國國籍ヲ取得スルコトヲ得ス

第百十三條

人民一般投票ヲ行ヒタル「シュレスウィヒ」地域ノ全部又ハ一部ニ對スル主權カ丁抹國ニ復歸シタル日ヨリ二年以内ニ丁抹國ニ復歸シタル地域ニ出生シ該地方ニ定住セス且獨逸國國籍ヲ有スル十八歳以上ノ者ハ丁抹國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

丁抹國國籍ヲ選擇スル十八歳以上ノ者ハ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ選擇權行使前ニ定住シタル他ノ國ノ領土内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得右財産ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

第百十四條

獨逸國及普魯西ノ財政上其ノ他ノ義務ニシテ丁抹國カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ

丁抹國カ千八百六十四年十月三十日ノ條約ニ依リ奪取セラレタル地域ノ全部又ハ一部ヲ丁抹國ニ引渡ス結果生スヘキ他ノ諸問題ハ今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十三款

「ヘリゴランド」

第百十五條

「ヘリゴランド」島及「デューネ」島ノ築城、軍事建設物及港ハ主タル同盟國政府ノ監視ノ下ニ其ノ定ムル期間內ニ獨逸國ノ勞力ニ依リ且獨逸國ノ費用ヲ以テ之ヲ破壞スヘシ

「港」ナル語ニハ東北突堤、西岸壁、內外防波堤及其ノ內方ニ在ル埋立地竝千九百十八年四月十九日ノ英國海軍省海圖第百二十六號ニ掲クル左ノ諸點ヲ連結スル諸線ノ間ニ在ル構設濟又ハ構設中ノ一切ノ海陸軍用ノ工作物、築城及建物ヲ包含スヘシ

(イ)	北緯	五十四度十分四十九秒	東經 七度五十三分三十九秒
(ロ)	北緯	五十四度十分三十五秒	東經 七度五十四分十八秒
(ハ)	北緯	五十四度十分十四秒	東經 七度五十四分
(ニ)	北緯	五十四度十分十七秒	東經 七度五十三分三十七秒
(ホ)	北緯	五十四度十分四十四秒	東經 七度五十三分二十六秒

前記ノ築城、軍事建設物及港ハ之ヲ再構設スヘカラス又將來何等之ニ類スル工作物ヲ構設スヘカラス

第十四款

露西亞及露西亞諸國

第百十六條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ一部タリシ一切ノ地域ノ獨立ヲ永久不變ノモノトシテ承認シ且之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ第九編(財政條項)第二百五十九條及第十編(經濟條項)第二百九十二條ノ規定ニ從ヒ「ブレスト、リトウスク」條約竝其ノ露西亞過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ確認ス

同盟及聯合國ハ露西亞國カ本條約ノ原則ニ基ク回復及賠償ヲ獨逸國ヨリ取得スルノ權利ヲ明確ニ留保ス

第百十七條

獨逸國ハ同盟及聯合國カ千九百十四年八月一日ニ於ケル前露西亞帝國ノ全部又ハ一部ニ於テ現ニ存シ又ハ將來成立スル諸國ト締結スヘキ一切ノ條約又ハ取極ノ完全ナル效力ヲ承認シ且右條約又ハ取極中ニ決定スル此等諸國ノ國境ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第四編

獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益

第百十八條

獨逸國ハ本條約ニ定メタル其ノ歐羅巴ニ於ケル國境外ノ地域ニ於テ自國又ハ其ノ同盟國ノ領土內ニ又ハ該領土ニ關シテ有スル一切ノ權利、權原及特權竝發生事由ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス

獨逸國ハ前項ノ規定實行ノ爲主タル同盟及聯合國カ必要ナル場合ニハ第三國ト協議シテ現在又ハ將來ニ於テ執ルコトアルヘキ措置ヲ承認シ且之ニ遵由スルコトヲ竝ニ約ス

獨逸國ハ殊ニ特定事項ニ關スル左ノ各條ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

第一款

獨逸國殖民地

第百十九條

獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

第百二十條

前記地域ニ於ケル一切ノ動產及不動產ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ總テ第九編(財政條項)第二百五十七條ニ規定スル條件ニ從ヒ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ニ歸屬スヘシ右財產ノ性質ニ關スル爭議ニ付テハ該地方ノ裁判所ノ判決ヲ以テ確定ト爲スヘシ

第百二十一條

第十編(經濟條項)第一款及第四款ノ規定ハ前記地域ニ對スル施政ノ形式如何ニ拘ヲス該地域ニ付之ヲ適用スヘシ

第百二十二條

前記地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ハ該地域內ニ在ル獨逸國民ノ送還ニ關シ及歐羅巴系獨逸國臣民ノ該地域ニ於ケル居住、財產保有、營業又ハ職業ヲ許可シ又ハ禁止スルノ條件ニ關シ其ノ適當ト認ムル處置ヲ執ルコトヲ得

第百二十三條

第九編(財政條項)第二百六十條ノ規定ハ獨逸國海外屬地ニ於ケル公共工事ノ實行又ハ經營ノ爲獨逸國民ト締結シタル一切ノ取極及該取極ニ基キ獨逸國民ニ許與シ又ハ之ト締結シタル下請負又ハ契約ニ之ヲ適用スヘシ

第百二十四條

獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ佛蘭西國民カ千九百年一月一日ヨリ千九百十四年八月一日ニ至ル期間ニ「カメルーン」又ハ其ノ國境地帶ニ於テ獨逸國文武官憲及獨逸國私人ノ行爲ニ因リ受ケタル損害ノ賠償ヲ支拂フコトヲ茲ニ約ス

第百二十五條

獨逸國ハ赤道地帶阿弗利加ニ關スル千九百十一年十一月四日及千九百十二年九月二十八日ノ佛蘭西國トノ條約及取極ニ基ク一切ノ權利ヲ拋棄ス獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ右條約及取極ニ依リ獨逸國ノ爲ニ爲シタル一切ノ保證金、貸金、前貸金等ヲ佛蘭西國政府ニ支拂フコトヲ約ス

第百二十六條

獨逸國ハ武器及火酒ノ取引ニ關シ竝千八百八十五年二月二十六日ノ伯林一般議定書、千八百九十年七月二日ノ「ブリュッセル」一般議定書及之ヲ補足シ又ハ變更

スル條約ニ規定スル事項ニ關シ同盟及聯合國又ハ其ノ數國ト他國トノ間ニ締結シタル又ハ締結スルコトアルヘキ取極ヲ受諾シ且遵守スルコトヲ約ス

第百二十七條

舊獨逸國海外屬地ノ土人ハ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ノ外交上ノ保護ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ

第二款

支那國

第百二十八條

獨逸國ハ千九百一年九月七日北京ニ於テ署名シタル最終議定書ノ規定竝之ヲ補足スル一切ノ附屬書、公文及文書ヨリ生スル利益及特權ヲ總テ支那國ノ爲ニ拋棄ス獨逸國ハ又該議定書ニ基ク千九百十七年三月十四日以後ノ償金請求權ヲ支那國ノ爲ニ拋棄ス

第百二十九條

締約國ハ本條約實施後各自國ノ關スル限リ左ノ協定ヲ適用スヘシ

一　支那新關稅率ニ關スル千九百二年八月二十九日ノ協定

二　黃浦江ニ關スル千九百五年九月二十七日ノ協定及千九百十二年四月四日ノ追加假協定

但シ支那國ハ前記協定ニ依リ獨逸國ニ許與シタル利益又ハ特權ヲ今後獨逸國ニ認ムルノ義務ナシ

第百三十條

獨逸國ハ天津及漢口ニ在ル獨逸專管居留地其ノ他支那國領土內ニ存在シ又ハ存在スルコトアルヘキ獨逸國政府所屬ノ一切ノ建築物、埠頭及蘆船、兵營、堡壘、兵

器及軍需品、各種艦船、無線電信設備其ノ他ノ公財産ヲ支那國ニ讓渡ス但シ本編第八款ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所ニ使用シタル土地建物ハ之ヲ前記讓渡物件中ニ包含セス又支那國政府ハ千九百一年九月七日ノ最終議定書ノ本條約實施當時ノ當事國タル列國ノ外交代表者ノ同意アルニ非サレハ所謂北京公使館區域内ニ在ル獨逸ノ公私財産ノ處分ニ付何等ノ處置ヲ執ルコトヲ得ス

第百三十一條

獨逸國ハ千九百年千九百一年ニ於テ其ノ軍隊カ支那國ヨリ搬去シタル天文機械ノ全部ヲ本條約實施後十二月以内ニ支那國ニ還付シ且該機械ノ取外、荷造、運搬、保險及北京ニ於ケル据附等該機械ノ還付實行ノ爲要スヘキ一切ノ費用ヲ支辨スルコトヲ約ス

第百三十二條

獨逸國ハ支那國政府ヨリ取得シ漢口及天津ニ於テ獨逸專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル租地權ノ失效ニ同意ス

支那國ハ前記地域ニ於テ其ノ主權ノ完全ナル行使ヲ回復スルト共ニ各國人ノ居住及通商ノ爲之ヲ開放スルノ意思ヲ聲明ス尚支那國ハ前記專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル租地權ノ失效カ其ノ專管居留地内ニ於ケル地區ノ保有者タル同盟及聯合國國民ノ財産權ニ影響ナカルヘキコトヲ聲明ス

第百三十三條

獨逸國ハ支那國ニ於ケル獨逸國民ノ抑留及送還ニ因リ生スル支那國政府又ハ同盟國若ハ聯合國政府ニ對スル一切ノ請求ヲ拋棄ス尚獨逸國ハ千九百十七年八月十四日以後支那國ニ於ケル獨逸船舶ノ拿捕及捕獲又ハ獨逸ノ財産、權利及利益ニ對スル清算、保管若ハ管理ニ因リ生スル一切ノ請求ヲ拋棄ス但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編(經濟條項)ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第百三十四條

獨逸國ハ廣東沙面ニ於ケル英吉利專管居留地内ニ在ル獨逸國有財産ヲ大不列顛國政府ノ爲ニ拋棄シ又上海ニ於ケル佛蘭西專管居留地内ニ在ル獨逸學校ノ財産ヲ佛蘭西支那兩國政府ノ爲ニ拋棄ス

第三款

暹羅國

第百三十五條

獨逸國ハ其ノ暹羅國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約及取極竝之ニ基ク一切ノ權利、權原及特權ハ治外法權ニ關スル一切ノ權利ト共ニ千九百十七年七月二十二日以後消滅シタルコトヲ承認ス

第百三十六條

暹羅國內ニ於ケル獨逸帝國又ハ獨逸各邦所屬ノ一切ノ物件及財產ハ外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所トシテ使用スル土地建物ヲ除クノ外當然且無償ニテ暹羅國政府ニ歸屬ス

暹羅國ニ於ケル獨逸國民ノ物件、財產及私權ハ第十編(經濟條項)ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百三十七條

獨逸國ハ獨逸船舶ノ拿捕及捕獲、獨逸財產ノ淸算又ハ暹羅國ニ於ケル獨逸國民ノ抑留ニ因リ生シタル暹羅國政府ニ對スル一切ノ請求權ヲ自國又ハ其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス但シ淸算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編(經濟條項)ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第四款

「リベリア」國

第百三十八條

獨逸國ハ「リベリア」國ニ關スル千九百十一年及千九百十二年ノ協定ニ基ク一切ノ權利及特權ヲ、殊ニ「リベリア」國ニ於テ獨逸國人ノ關稅徵收官ヲ任命スルノ權利ヲ拋棄ス

獨逸國ハ尙「リベリア」國回復ノ爲採用セラルヘキ措置ニ干與スルノ一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第百三十九條

獨逸國ハ獨逸國ト「リベリア」國トノ間ノ一切ノ條約及協定カ千九百十七年八月四日以後消滅シタルコトヲ承認ス

第百四十條

「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ財產、權利及利益ハ第十編(經濟條項)ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第五款

摩洛哥國

第百四十一條

獨逸國ハ千九百六年四月七日ノ「アルヘシラス」一般議定書竝千九百九年二月九日及千九百十一年十一月四日ノ佛蘭西獨逸兩國間ノ取極ニ依リ獨逸國ニ付與セラレタル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス獨逸國カ摩洛哥帝國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月三日以後廢棄セラレタルモノト看做ス

獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又佛蘭西國ト他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ摩洛哥國ニ關スル商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第百四十二條

獨逸國ハ摩洛哥國ニ於ケル佛蘭西國ノ保護權ヲ承認シタルニ因リ茲ニ其ノ保護權確立ノ一切ノ結果ヲ容認シ且摩洛哥國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄ス

右拋棄ハ千九百十四年八月三日ヨリ其ノ效力ヲ有スルモノトス

第百四十三條

摩洛哥國政府ハ摩洛哥國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

獨逸ノ保護民、仲買人及農業組合員ハ千九百十四年八月三日以後其ノ地位ニ伴フ特權ヲ享有セサルニ至リタルモノト看做シ普通法ノ適用ヲ受ケシムヘシ

第百四十四條

摩洛哥帝國內ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財產及所有物ハ無償ニテ摩洛哥國政府ニ歸屬ス

右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ヲ包含スルモノト認ムヘシ」

摩洛哥帝國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ一切ノ動產及不動產ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

摩洛哥國鑛業法令ニ依リ設置セラレタル仲裁裁判所ニ於テ獨逸國民ニ屬スト認定セラレタル鑛業權ハ仲裁人ニ委囑シ其ノ評價ヲ經タル上摩洛哥國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ財產ト同樣ニ之ヲ取扱フヘシ

第百四十五條

獨逸國政府ハ摩洛哥國立銀行ノ資本金中獨逸國ノ持分ニ相當スル株券ヲ佛蘭西國政府ノ指定シタル者ニ讓渡スルコトヲ確保スヘシ該株券ノ價額ハ賠償委員會ノ評定ヲ經タル上賠償金額ニ充當スル爲獨逸國ノ貸方トシテ賠償委員會ニ之ヲ支拂フヘシ獨逸國政府ハ之ニ依リ權利ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ賠

償ノ責ニ任スヘシ

前記譲渡ハ獨逸國民カ摩洛哥國立銀行ニ對シ負擔シタル金錢債務ノ辨濟ヲ害スルコトナクシテ行ハルヘシ

第百四十六條

獨逸國ニ輸入スル摩洛哥國ノ貨物ハ佛蘭西國ノ貨物ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第六款

埃及國

第百四十七條

獨逸國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顛國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

右拋棄ハ千九百十四年八月四日ヨリ其ノ效力ヲ有ス

第百四十八條

獨逸國カ埃及國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月四日以後廢棄セラレタルモノト看做ス

獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又大不列顛國ト他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ埃及國ニ關スル商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第百四十九條

一般管轄權ヲ有スル裁判所ヲ設置スル埃及國裁判所構成法施行ニ至ル迄ハ埃及國王殿下ノ發布スル命令ニ依リ英國領事裁判所ニ於テ獨逸國ノ國民及財產ニ對スル裁判權ヲ行使シ得ルノ規定ヲ設クヘシ

第百五十條

埃及國政府ハ埃及國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第百五十一條

獨逸國ハ埃及太守殿下カ埃及國公債委員會ニ關シ發布シタル千九百四年十一月二十八日ノ命令ヲ廢棄シ又ハ埃及國政府ノ希望スル變更ヲ同命令ニ加フルコトニ同意ス

第百五十二條

獨逸國ハ自國ノ關スル限リ蘇士運河ノ自由航行ニ付千八百八十八年十月二十九日「コンスタンティノープル」ニ於テ署名シタル條約ニ依リ土耳其國皇帝陛下ニ付與セラレタル權能ヲ英國政府ニ移轉スルコトニ同意ス

獨逸國ハ埃及國ノ衞生、海事及檢疫委員會ニ干與スル一切ノ權利ヲ拋棄シ又其ノ關スル限リ右委員會ノ權能ヲ埃及國官憲ニ移轉スルコトニ同意ス

第百五十三條

埃及國ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財產及所有物ハ無償ニテ埃及國政府ニ歸屬ス

右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ヲ包含スルモノト認ムヘシ」

埃及國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ一切ノ動產及不動產ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百五十四條

獨逸國ニ輸入スル埃及國ノ貨物ハ英國ノ貨物ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第七款

土耳其國及勃爾牙利國

第百五十五條

獨逸國ハ土耳其國及勃爾牙利國ニ於テ獨逸國又ハ其ノ國民ノ請求スルコトアルヘキ一切ノ權利、利益及特權ニシテ本條約ニ其ノ規定ヲ設ケサルモノニ關シ同盟及聯合國カ土耳其國及勃爾牙利國ト爲スコトアルヘキ一切ノ協定ヲ認諾スヘキコトヲ約ス

第八款

山東

第百五十六條

獨逸國ハ千八百九十八年三月六日獨逸國ト支那國トノ間ニ締結シタル條約及山東省ニ關スル他ノ一切ノ協定ニ依リ取得シタル權利、權原及特權ノ全部殊ニ膠州灣地域、鐵道、鑛山及海底電信線ニ關スルモノヲ日本國ノ爲ニ拋棄ス

青島濟南府間ノ鐵道(其ノ支線ヲ含ミ竝各種ノ附屬財產、停車場、工場、固定物件及車輛、鑛山、鑛業用設備及材料ヲ包含ス)ニ關スル一切ノ獨逸ノ權利ハ之ニ附帶スル一切ノ權利及特權ト共ニ日本國之ヲ取得保持ス

青島上海間及青島芝罘間ノ獨逸國有海底電信線ハ之ニ附帶スル一切ノ權利、特權及財產ト共ニ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得ス

第百五十七條

膠州灣地域內ニ於ケル獨逸國有ノ動產及不動產竝該地域ニ關シ獨逸國カ直接又ハ間接ニ施設若ハ改良ヲ爲シ又ハ費用ヲ負擔シタル爲其ノ主張シ得ヘキ一切ノ權利ハ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得保持ス

第百五十八條

獨逸國ハ膠州灣地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記錄、登錄簿、圖面、證書

其ノ他各種ノ文書ヲ其ノ所在ノ如何ニ拘ラス本條約實施後三月以内ニ日本國ニ引渡スヘシ

獨逸國ハ前二條ニ規定シタル權利、權原又ハ特權ニ關スル一切ノ條約、協定又ハ取極ニ付其ノ詳細ヲ前記期間内ニ日本國ニ通告スヘシ

第五編

陸軍海軍及航空條項

各國軍備ノ一般的制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲獨逸國ハ左ニ掲クル陸軍海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

第一款

陸軍條項

第一章

獨逸國陸軍ノ兵力及幹部

第百五十九條

獨逸國陸軍ハ左ニ規定スル所ニ從ヒ復員シ且縮少スヘシ

第百六十條

一　獨逸國陸軍ハ千九百二十年三月三十一日迄ニ之ヲ歩兵七師團及騎兵三師團以下ト爲スコトヲ要ス

獨逸國ヲ組織スル諸邦ノ陸軍總兵員數ハ前記ノ期限以後將校及補充部隊要

員ヲ合セ十萬人ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國陸軍ハ專ラ其ノ版圖內ノ秩序維持及國境ノ警備ニ從事スヘキモノトス

將校ノ總員數ハ其ノ編成ノ如何ヲ問ハス司令部ノ要員ヲ合セ四千人ヲ超ユルコトヲ得ス

二　師團及軍團司令部ノ編制ハ本款第一附屬表ニ依ル

前記附屬表ニ揭クル步兵、砲兵及工兵ノ部隊竝特種勤務部隊ノ數竝人員數ハ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

左ノ部隊ハ各其ノ補充部隊ヲ有スルコトヲ得

步兵聯隊
騎兵聯隊
野戰砲兵聯隊
工兵大隊

三　師團ハ之ヲ二箇ヲ超ユル軍團司令部ノ下ニ編合スルコトヲ得ス

軍隊ノ統率又ハ戰爭準備ノ爲右ト異リテ編合セラレタル軍隊又ハ他ノ機關ヲ維持シ又ハ設クルコトヲ禁止スヘク且如何ナル形式ヲ以テスルモ再ヒ之ヲ設置スルコトヲ得ス

獨逸國參謀本部及之ニ類似スル一切ノ機關ハ之ヲ廢止スヘク且如何ナル形

獨逸國各邦ノ陸軍省及其ノ附屬諸官衙ニ在ル將校又ハ之ト同一ノ地位ニ在

ル者ノ員數ハ三百人ヲ超ユヘカラス尙此ノ人員ハ本條第一號第三項ニ規定スル最大限四千人ノ中ニ包含セラルルモノトス

第百六十一條

本條約規定ノ兵員中ニ包含セサル文官ヲ以テ組織スル軍政諸機關ノ人員ハ其ノ各級ニ於テ千九百十三年度豫算ニ計上シタルモノノ十分ノ一ニ之ヲ減スヘシ

第百六十二條

獨逸國各邦ニ於ケル稅關吏、森林看守及海岸監視者ノ如キ官吏又ハ傭員ノ數ハ千九百十三年ノ現在數ヲ超ユヘカラス

地方又ハ市町村警察ノ憲兵及官吏又ハ市町村ニ於ケル千九百十三年以後ノ人口增加ニ相應スル範圍ニ限リ之ヲ增員スルコトヲ得」

前記ノ官吏及傭員ハ軍事教育ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得ス

第百六十三條

第百六十條ニ規定スル獨逸國陸軍兵力ノ縮少ハ左ノ方法ニ依リ漸次之ヲ施行スルコトヲ得

本條約實施後三月以內ニ總兵力ヲ二十萬人ニ縮少スルコトヲ要ス但シ其ノ部隊ノ數ハ第百六十條ニ規定スルモノノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間滿了ノ時及爾後每三月ノ終ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ軍事專門家ノ會議ハ次ノ三月間ニ行フヘキ縮少ノ程度ヲ決定シ以テ遲クトモ千九百二

十年三月三十一日迄ニ獨逸國ノ總兵力ヲ第百六十條ニ規定スル最大限十萬人ヲ超エサルニ至ラシムルモノトス右各次ノ縮少ニ際シテハ同條ニ規定スル將校數ト下士卒數トノ比率及各種部隊間ノ比率ヲ維持スヘシ

第一一章

兵器、彈藥及材料

第百六十四條

獨逸國カ國際聯盟加入ヲ許容セラルルニ至ル迄同國陸軍ハ本款第二附屬表ノ定數ヲ超ユル數ノ兵器ヲ有スルコトヲ得ス但シ專ラ臨時必要ノ補充ニ供スル爲携帶兵器ニ在リテハ二十五分ノ一、火砲ニ在リテハ五十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ任意其ノ數ヲ增加スルコトヲ得

獨逸國ハ前記附屬表ノ兵器ノ定數カ其ノ國際聯盟ノ一國ト爲リタル後ト雖聯盟理事會ニ於テ之ヲ修正スル迄引續キ效力ヲ有スヘキコト及此ノ問題ニ關シ聯盟理事會ノ決定ヲ嚴守スヘキコトヲ約ス

第百六十五條

本條約實施ノ時ヨリ第百六十條ニ規定スル千九百二十年三月三十一日ニ至ル期間ニ於テ獨逸國カ有スルコトヲ得ヘキ火砲、機關銃、迫擊砲及小銃ノ最大數竝彈藥及裝備ノ量ト本款第三附屬表ノ定數トノ比率ハ第百六十三條ニ依リ逐次縮少セラルル獨逸國陸軍兵力トノ比率ニ均シカルヘシ

第百六十六條

獨逸國陸軍カ任意ニ處分シ得ヘキ彈藥ノ貯藏量ハ千九百二十年三月三十一日ニ於テ本款第三附屬表ノ定數ヲ超ユルコトヲ得ス

獨逸國政府ハ右期限迄ニ前項ノ貯藏彈藥ヲ特定ノ地點ニ集積シ其ノ地點ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘシ獨逸國政府ハ右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠又ハ豫備彈藥ヲ存置スルコトヲ得ス

第百六十七條

獨逸國カ存置ヲ許サレタル築城工事、堡壘、陸地要塞及海岸要塞ノ兵備ヲ構成スル火砲ノ數及口徑ハ本條約實施ノ日ノ現在ニ依リ獨逸國政府速ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘシ獨逸國政府ハ右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠前記火砲用ノ彈藥ノ最大貯藏量ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ左ノ定率ニ低減シ且之ヲ持續スヘシ

口徑十珊半以下ノ火砲　一門ニ付　千五百發

口徑十珊半ヲ超ユル火砲　一門ニ付　五百發

第百六十八條

兵器、彈藥其ノ他ノ軍用材料ハ主タル同盟及聯合國政府ニ通告シテ其ノ承認ヲ

經タル地ノ工場又ハ製造所ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得主タル同盟及聯合國政府ハ右工場又ハ製造所ノ數ヲ制限スルノ權利ヲ留保ス

兵器、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ製造、準備、貯藏又ハ設計ヲ目的トスル前記以外ノ設備ハ本條約實施後三月以內ニ總テ之ヲ閉鎖スヘシ承認セラレタル彈藥ノ補給廠トシテ使用スルモノヲ除クノ外一切ノ軍用工場ニ付亦同シ右軍用工場ニ使用スル人員ハ同一期間內ニ之ヲ解傭スヘシ

第百六十九條

獨逸國內ニ在ル獨逸國ノ兵器、彈藥及軍用材料(對航空機材料ヲ含ム)ニシテ承認セラレタル數量ヲ超ユルモノハ本條約實施後二月以內ニ破壞又ハ廢棄ノ爲之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス承認セラレタル獨逸國陸軍ノ裝備ニ必要ト認メラルルモノヲ除クノ外軍用材料ノ製造ヲ目的トスル特別設備ニ付亦同シ

前項ノ引渡ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル獨逸國版圖內ノ地點ニ於テ之ヲ實行スヘシ

獨逸國ノ原產ニ非サル兵器、彈藥及軍用材料(對航空機材料ヲ含ム)ハ其ノ狀態ノ如何ヲ問ハス右期間內ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スヘク同政府ハ其ノ處分ヲ決スヘシ

獨逸國陸軍兵力ノ逐次縮少ノ結果第二及第三附屬表ノ定數ヲ超過スルニ至リタル兵器、彈藥及軍用材料ハ第百六十三條ノ會議ニ於テ決定スル期間內ニ右同樣之ヲ引渡スコトヲ要ス

第百七十條

獨逸國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁止ス

前項ノ規定ハ外國ノ爲ニスルル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ニ之ヲ適用ス

第百七十一條

窒息性、毒性其ノ他ノ瓦斯及之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ獨逸國內ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸入スルコトヲ嚴禁ス」

前項ノ規定ハ特ニ右物品又ハ考案ノ製造、貯藏及使用ヲ目的トスル材料ニ付之ヲ適用ス

裝甲車、「タンク」及軍用ニ供シ得ヘキ之ニ類似スル一切ノ製品亦之カ製造及獨逸國ヘノ輸入ヲ禁止ス

第百七十二條

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國ノ使用シ又ハ使用ノ目的ヲ以テ準備シタル一切ノ爆藥、有毒材料其ノ他類似ノ化學製品ノ性質及製造方法ヲ本條約實施後三月以內ニ主タル同盟及聯合國政府ニ開示スヘシ

第三章

募兵及軍事教育

第百七十三條

獨逸國ニ於ケル一般義務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ

獨逸國陸軍ハ志願兵制度ノミニ依リ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得

第百七十四條

下士及兵卒ノ服役期間ハ繼續十二年タルコトヲ要ス

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル下士及兵卒ノ數ハ毎年第百六十條第一號第二項ノ總兵員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第百七十五條

獨逸國陸軍ニ引續キ在職スル將校ハ少クトモ四十五歳迄服役スルノ義務ヲ約スルコトヲ要ス

新ニ任命セラルル將校ハ少クトモ繼續二十五年間ノ現役服務ヲ約スルコトヲ要ス

從前獨逸國陸軍ノ編成ニ屬シタル將校ニシテ存置ヲ承認セラレタル部隊ニ引續キ在職スルニ非サルモノハ學理ト實地トヲ問ハス一切ノ軍事教育ニ參加スルコトヲ得ス且何等軍事上ノ義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル將校ノ數ハ毎年第百六十條第一號第三項ノ將校總員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第百七十六條

本條約實施後二月ノ終ニ於ケル獨逸國內陸軍學校ノ數ハ承認セラレタル部隊ノ將校ヲ補充スル爲絕對ニ必要ナルモノニ限ル右學校ハ各兵科ニ付一校ノ割合ヲ以テ專ラ其ノ兵科將校ノ補充ヲ目的トスヘキモノトス

前記學校ノ課程ヲ修ムルノ許可ヲ得タル學生ノ數ハ將校定員中充足スヘキ闕員ノ數ト嚴ニ比例スルコトヲ要ス此等學生及幹部ノ數ハ第百六十條第一號第二項及第三項ノ兵員定數中ニ算入スヘキモノトス

依テ獨逸國內ニ在ル陸軍大學校又ハ之ニ類似スル機關及將校、將校候補者(アスピランテン)、幼年生徒、下士又ハ下士候補者(アスピランテン)ノ爲設置シタル各種陸軍學校ハ右ニ規定スルモノヲ除クノ外右期間內ニ總テ之ヲ廢止スヘシ

第百七十七條

教育機關、大學、在鄕軍人會、射擊協會、旅行協會其ノ他團員ノ年齡ヲ問ハス各種ノ團體ハ何等軍事上ノ事項ニ干與スヘカラサルモノトス

前項ノ團體ハ殊ニ軍事又ハ兵器ノ使用ニ付其ノ團員ヲ教育訓練シ又ハ其ノ團員ヲシテ教育訓練ヲ受ケシムルコトヲ禁止セラルヘシ

前記ノ會、團體、教育機關及大學ハ陸軍省其ノ他ノ陸軍官憲ト何等ノ關係ヲ有ス

ルコトヲ得ス

第百七十八條

動員又ハ之ニ關スル一切ノ措置ハ之ヲ禁止ス

如何ナル場合ト雖軍隊、官衙又ハ司令部ハ定員外ノ幹部ヲ有スルコトヲ得ス

第百七十九條

獨逸國ハ本條約實施後陸軍、海軍又ハ航空委員ヲ外國ニ駐劄セシメ若ハ派遣セス又ハ其ノ出國ヲ容認セサルコトヲ約ス又獨逸國ハ其ノ國民ニシテ外國ノ陸海若ハ空軍ニ編入セラルル爲又ハ外國ニ於テ陸海若ハ空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他其ノ教育ヲ爲ス ノ目的ヲ以テ外國ノ陸海若ハ空軍ニ附屬スル爲獨逸國領土ヲ離ルルモノヲ防止スヘキ適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ其ノ關スル限リ本條約實施後其ノ陸海又ハ空軍ノ軍事教育ヲ援助セシムル目的ヲ以テ獨逸國民ヲ其ノ陸海又ハ空軍ニ編入シ又ハ附屬セシメ其ノ他陸海又ハ空軍ノ教官トシテ獨逸國民ヲ雇入レサルコトヲ約ス

尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國カ佛蘭西國陸軍法令ニ依リ外人聯隊ノ募兵ヲ爲ス ノ權利ヲ妨ケサルモノトス

第四章

築城

第百八十條

萊因河ノ東方五十吉米ニ引カレタル線ノ西方ニ位スル獨逸國版圖内ニ在ル一切ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ハ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

前記ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ニシテ同盟及聯合軍ノ占領地域内ニ在ラサルモノハ本條約實施後二月以内ニ其ノ武裝ヲ解除シ爾後四月以内ニ其ノ防備ヲ撤廢スヘシ同盟及聯合軍ノ占領地域内ニ在ルモノハ同盟軍最高統帥部ノ定ムル期間内ニ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

本條第一項ノ地帶内ニ於テハ其ノ性質ノ如何及重要ノ程度ヲ論セス新築城ノ構設ヲ禁止ス

獨逸國ノ南方及東方國境ニ於ケル築城工事ハ現狀ノ儘之ヲ存置スヘキモノトス

第一附屬表

軍團司令部、步兵師團及騎兵師團ノ編制

左ノ諸表ハ獨逸國ニ課スヘキ確定ノ編制ヲ示スモノニ非サルモ諸表中ニ掲クル員數(部隊及人員數)ハ如何ナル場合ニ於テモ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

一　軍團司令部

部隊	承認最大數			
	將校	下士	卒	
軍團司令部	二	三〇	一五〇	
軍團司令部合計	一	六〇	三〇〇	

二　步兵師團ノ編制

部隊	一師團內各部隊ノ最大數			各部隊ノ最大人員		
	將	校	下士	卒		
步兵師團司令部	一	二五		七〇		
師團步兵司令部	一	四		三〇		
師團砲兵司令部	一	四		三〇		

部隊	一師團內各部隊ノ最大數			各部隊ノ最大人員		
	將	校	下士	卒		
騎兵師團司令部						
騎兵聯隊(各聯隊ハ中隊四ヨリ成ル)	一	一五		五〇		
騎砲兵大隊(中隊三)	六	四〇		八〇〇		
	一	二〇		四〇〇		

三　騎兵師團ノ編制

部隊	一師團內各部隊ノ最大數			各部隊ノ最大人員		
	將	校	下士	卒		
步兵聯隊(各步兵聯隊ハ步兵大隊三ヨリ又各大隊ハ步兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル)	三	七〇		二三〇〇		
野戰砲兵聯隊(各野戰砲兵聯隊ハ砲兵大隊三ヨリ又各大隊ハ砲兵中隊三ヨリ成ル)	三	六		一五〇		
迫擊砲中隊	一	六		一五〇		
師團騎兵中隊	一	八五		一三〇〇		
工兵大隊(本工兵大隊ハ工兵中隊二、橋艙隊一、探照燈班一ヨリ成ル)	一	一二		四〇〇		
通信隊(本通信隊ハ電話隊一、聽取班一、軍用鳩班一ヨリ成ル)	一	一二		三〇〇		
師團衛生隊	一	一〇		四〇〇		
諸廠及輜重隊	一	一四		八〇〇		
步兵師團合計	一	四一〇		一〇、八三〇		

第二附屬表

步兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ對スル兵器最大限數表

品目	步兵師團(一)	步兵師團七ニ對スル分(二)	騎兵師團(三)	騎兵師團三ニ對スル分(四)	軍團司令部(五)	(二)(四)(五)欄ノ合計(六)
步兵銃	一二、〇〇〇	八四、〇〇〇	—	—	二七五	五、二五〇
騎銃	—	—	六、〇〇〇	一八、〇〇〇	—	一八、〇〇〇
重機關銃	一〇八	七五六	一二	三六	—	七九二
輕機關銃	一六二	一、一三四	一二	三六	—	一、一三四
中迫擊砲	九	六三	—	—	—	六三
輕迫擊砲	二七	一八九	—	—	—	一八九
七・七珊野砲	二四	一六八	一二	三六	—	二〇四
一〇・五珊榴彈砲	一二	八四	—	—	—	八四

本編制ノ所要數ハ師團步兵ノ過剩兵器ヨリ補給スルコトヲ要ス

第三附屬表

承認最大貯藏量表

品目	承認兵器最大數	一銃一砲ノ彈藥定數	最大數合計
步兵銃	八四、〇〇〇	四〇〇發	四〇、八〇〇、〇〇〇發
騎銃	一八、〇〇〇		
重機關銃	七九二	八、〇〇〇發	一五、四〇八、〇〇〇發
輕機關銃	一、一三四		
中迫擊砲	六三	四〇〇發	二五、二〇〇發
輕迫擊砲	一八九	八〇〇發	一五一、二〇〇發
野戰砲 七・七珊野砲	二〇四	一、〇〇〇發	二〇四、〇〇〇發
一〇・五珊榴彈砲	八四	八〇〇發	六七、二〇〇發

第二款

海軍條項

第百八十一條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國常備海軍力ハ左ノ定數ヲ超エサルコトヲ要ス

「ドイチュランド」又ハ「ロートリンゲン」型戰艦　六隻
輕巡洋艦　六隻
驅逐艦　十二隻
水雷艇　十二隻

又ハ第百九十條ノ規定ニ依リ右艦艇ノ代艦トシテ建造セラルル同數ノ艦艇

前項ノ海軍力中ニハ潛水艦ヲ包含セサルモノトス

爾餘ノ艦艇ハ本條約中ニ反對ノ規定ナキ限リ總テ之ヲ豫備ニ編入シ又ハ商業上ノ目的ニ專用スルコトヲ要ス

第百八十二條

第百九十三條ニ規定スル機雷掃海ノ完了ニ至ル迄獨逸國ハ主タル同盟及聯合

國政府ノ指定スル隻數ノ機雷掃海船ヲ常備スヘシ

第百八十三條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國海軍所屬總人員ハ艦隊乘員及沿岸防禦、望樓、官衙其ノ他ノ陸上勤務者ヲ合セ各兵種及各階級ノ准士官以上及下士卒ヲ通シテ一萬五千人ヲ超エサルコトヲ要ス

准士官以上ノ總員數ハ千五百人ヲ超ユヘカラス

前記員數ヲ超過スル人員ハ本條約實施後二月以內ニ之ヲ復員スヘシ

獨逸國ニ於テハ前記員數以外ニ海軍ニ關係アル海上若ハ陸上ノ部隊又ハ豫備兵力ヲ編成スルコトヲ得ス

第百八十四條

獨逸國港灣ニ現在セサル一切ノ獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後獨逸國ニ屬セス獨逸國ハ該艦艇ニ對スル一切ノ權利ヲ拋棄ス

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ニ依リ現ニ同盟及聯合國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ確實ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

現ニ中立國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ該港灣ニ於テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ其ノ旨中立國ニ通告スルコトヲ要ス

第百八十五條

次ニ列記スル獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後二月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ニ其ノ指定スル同盟國港灣ニ於テ之ヲ引渡スヘシ

此等艦艇ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第二十三條ノ規定ニ依リ豫メ其ノ武裝ヲ解除スヘシ但シ砲全部ハ之ヲ艦内ニ存置スルコトヲ要ス

戰艦

「オルデンブルグ」　「ポーゼン」
「テューリンゲン」　「ウェストファーレン」
「オストフリースランド」　「ラインランド」
「ヘルゴランド」　「ナッサウ」

輕巡洋艦

「スラッティン」　「ストラールズンド」
「ダンチッヒ」　「アウグスブルグ」
「ミュンヒェン」　「コールベルグ」
「リューベック」　「ストゥットガルト」

右ノ外主タル同盟及聯合國政府ノ選定スル新式驅逐艦四十二隻及新式水雷艇五十隻

第百八十六條

獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ現ニ建造中ノ一切ノ獨逸國水上艦艇ノ解體ヲ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ行フコトヲ要ス

第百八十七條

左ニ列記スル獨逸國補助巡洋艦及補助特務船ハ武裝ヲ解除シ商船トシテ之ヲ取扱フヘシ

中立國ニ抑留中ノモノ

「ベルリン」　「ザイドリッツ」
「サンタ、フェ」　「ヨルク」

獨逸國ニ在ルモノ

「アムモン」　「フュールスト、ビューロー」
「アンスワルド」　「ゲルトルード」
「ボスニア」　「キゴマ」
「コルドバ」　「ルギア」
「カッセル」　「サンタ、エレナ」
「ダニア」　「シュレスウィヒ」
「リオ、ネグロ」　「モェーウェ」
「リオ、パルド」　「シエラ、ヴェンタナ」
「サンタ、クルーズ」　「ケムニッツ」
「シュワーベン」　「エミル、ゲオルグ、フォン、ストラウス」

「ゾーリンゲン」　「ハブスブルグ」
「スタイゲルワルド」　「メテオル」
「フランケン」　「ワルトラウテ」
「グンドマール」　「シャルンホルスト」

第百八十八條

獨逸國潛水艦、潛水艦救難船及潛水艦用船渠(管狀船渠ヲ含ム)ハ本條約實施後一月ノ終ニ於テ總テ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡濟ナルコトヲ要ス

此等潛水艦、救難船及船渠中主タル同盟及聯合國政府カ自力航行又ハ被曳航ニ堪フト認メタルモノハ指定セラレタル同盟國港灣ニ獨逸國政府之ヲ回航スヘシ」

爾餘ノモノ及建造中ノモノハ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ獨逸國政府全部之ヲ解體スヘシ該解體作業ハ本條約實施後遲クトモ三月以內ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第百八十九條

水上艦艇タルト潛水艦タルトヲ問ハス各種ノ獨逸國艦艇ノ解體ニ因リテ生シタル物品、機械及材料ハ純然タル產業上又ハ商業上ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ物品、機械及材料ハ之ヲ外國ニ賣却シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第百九十條

獨逸國ハ第百八十一條ニ規定スル常備艦艇ノ代艦ノ外如何ナル艦艇ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス

前項ノ代艦ハ左記排水量ヲ超ユルコトヲ得ス

裝甲艦	一萬噸
輕巡洋艦	六千噸
驅逐艦	八百噸
水雷艇	二百噸

各種艦艇ハ喪失ノ場合ヲ除クノ外進水ヨリ起算シ戰艦及巡洋艦ハ二十年、驅逐艦及水雷艇ハ十五年ノ期間ノ終ニ非サレハ代艦ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ス

第百九十一條

獨逸國ニ於テハ如何ナル潛水艦船ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス其ノ商業上ノ目的ニ供セラルルモノト雖異ルコトナシ

第百九十二條

獨逸國常備艦艇ハ主タル同盟及聯合國ノ指定スル數量ノ兵器、彈藥及軍用材料ノミヲ艦內ニ備ヘ又ハ豫備トシテ保有スヘシ

現ニ獨逸國政府ノ保有スル兵器、彈藥及各種軍用材料(機雷及魚雷ヲ含ム)ニシテ前項ノ數量ヲ超ユルモノハ該數量指定後一月以內ニ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ同政府ニ引渡スヘシ右ノ兵器、彈藥及軍用材料ハ之

ヲ破壞シ又ハ廢棄スヘシ

前記以外ノ兵器彈藥又ハ各種海軍軍用材料ノ貯藏品、補充品又ハ豫備品ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

獨逸國版圖內ニ於テ外國ノ爲ニスル前記物件ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ハ之ヲ禁止ス

第百九十三條

獨逸國ハ本條約實施後直ニ綠威東經四度以東左ノ區域內ノ北海ニ於テ機雷掃海ヲ行フヘシ

一　北緯五十三度ト北緯五十九度トノ間

二　北緯六十度三十分以北

獨逸國ハ前項ノ區域內ニ機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

獨逸國ハ又今後主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル區域內ノ波羅的海ニ於テ掃海ヲ行ヒ且機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

第百九十四條

獨逸國海軍人員ハ准士官以上ハ繼續二十五年、下士卒ハ繼續十二年ヲ最短期間トスル志願契約ニ依リ總テ之ヲ採用スヘシ

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル人員ノ補充數ハ每年本款(第百八十三條)ノ總人員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

海軍ノ服役ヲ免セラルル者ハ各種ノ海陸軍軍事教育ヲ受ケス又ハ再ヒ海陸軍ノ勤務ニ服セサルコトヲ要ス

獨逸國海軍ニ屬スル准士官以上ニシテ復員セラレサルモノハ正當ノ理由ニ因リ服役ヲ免セラルル場合ヲ除クノ外四十五歲迄ノ服役ヲ約スルコトヲ要ス

獨逸國商船ノ高級船員又ハ乘組員ハ海軍ニ於テ何等ノ教育ヲ受クルコトヲ得ス

第百九十五條

波羅的海ニ至ル自由航行ヲ各國ニ保障スル爲獨逸國ハ北緯五十五度二十七分及北緯五十四度ノ兩緯線ト綠威東經九度及同東經十六度ノ兩子午線トヲ以テ劃シタル區域內ニ於テ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又北海波羅的海間ノ海路ヲ管制スヘキ砲ヲ裝備スルコトヲ得ス右區域內ニ現存スル要塞ハ同盟國政府ノ監視ノ下ニ且其ノ指定期間內ニ之ヲ破壞シ其ノ砲ヲ除去スヘシ

獨逸國政府ハ波羅的海北海間ノ海峽及隣接水域ニ關スル一切ノ水路圖誌ニシテ其ノ現ニ有スルモノヲ主タル同盟及聯合國政府ニ提供スヘシ

第百九十六條

第百九十五條及第三編歐洲政治條項第十三款(「ヘリゴランド」)ニ揭クルモノノ外ノ築城工事及築城ニシテ現ニ獨逸國海岸ヨリ五十吉米以內ニ在ルモノ又ハ獨逸國沿岸ノ獨逸國島嶼內ニ在ルモノハ總テ防禦ノ性質ヲ有スルモノト認メ

現狀ノ儘之ヲ存置スルコトヲ得

前項ノ限界内ニハ新ニ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又前項防備ノ兵裝ハ砲數及口徑ニ付本條約實施當時現存ノ兵裝ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國政府ハ速ニ右兵裝ニ關スル細項ヲ歐洲各國政府ニ通報スヘシ

本條約實施後二月ノ期間滿了ノ時ニ於ケル前記砲用ノ彈藥ノ貯藏量ハ最大限ニ於テ口徑四・一吋以下ノ砲ニ在リテハ一門ニ付千五百發、之ヨリ大ナル口徑ノ砲ニ在リテハ一門ニ付五百發ニ低減シ之ヲ持續スヘシ

第百九十七條

本條約實施後三月ノ期間「ナウエン」、「ハノーヴァー」及伯林ノ大電力無線電信所ハ主タル同盟及聯合國政府ノ承認アルニ非サレハ獨逸國又ハ戰時中獨逸國ト同盟シタル各國ニ利害關係アル海陸軍事又ハ政治ノ問題ノ通信ニ之ヲ使用スヘカラス此等無線電信所ハ前記政府ノ監視ノ下ニ於テノミ商業上ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得其ノ使用スル波長ハ右政府之ヲ決定ス

前項ノ期間獨逸國ハ其ノ版圖内又ハ墺地利國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ノ版圖内ニ大電力無線電信所ヲ增設スルコトヲ得ス

第三款

航空條項

第百九十八條

獨逸國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含セサルコトヲ要ス

獨逸國ハ千九百十九年十月一日迄ノ期間水中機雷ノ捜索ニ專ラ使用セラレ且此ノ目的ノ爲必要ナル裝備ヲ有スル水上飛行機又ハ飛行艇百隻以内ヲ存置スルコトヲ得該水上飛行機又ハ飛行艇ハ如何ナル場合ニ於テモ何等ノ兵器、彈藥又ハ爆彈ヲ携行スルコトヲ得ス

前項ノ水上飛行機又ハ飛行艇ニ對シテハ之ニ裝置スル發動機ノ外各機艇ノ各發動機ニ付一箇ノ豫備發動機ヲ準備シ置クコトヲ得

航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

第百九十九條

獨逸國陸海軍軍人名簿ニ錄セラルル航空隊ノ兵員ハ本條約實施後二月以内ニ復員スルコトヲ要ス尤モ獨逸國ハ千九百十九年十月一日ニ至ル迄ノ間一切ノ軍隊及官衙等ニ於テ幹部及兵員(飛行者及非飛行者共)ヲ合セ將校ヲ含ミ總員千人ヲ存置スルコトヲ得

第二百條

同盟及聯合國ノ航空機ハ同盟及聯合國軍隊ノ獨逸國版圖内ヨリ完全ニ撤退スルニ至ル迄ノ間獨逸國内ニ於テ航空ノ自由竝通過及著陸ノ自由ヲ有ス

第二百一條

航空機、航空機ノ部品、航空機用發動機及航空機用發動機ノ部品ノ製造及輸入ハ本條約實施後六月間獨逸國全版圖内ニ於テ之ヲ禁止ス

第二百二條

第百九十八條第二項及第三項ニ掲クル航空器材ヲ除クノ外一切ノ陸海軍用航空材料ハ本條約實施ノ時ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス」

前項ノ引渡ハ前記政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行ヒ且三月以内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

前記ノ材料ニハ軍用ノ目的ヲ以テ使用セラルル若ハ使用セラレタル又ハ設計セラレタル左記各項ノ物件ヲ特ニ包含スルモノトス

飛行機及水上飛行機ニシテ完成シタルモノ竝製造、修理又ハ取纏中ノモノ

航空船ニシテ飛行ニ堪フルモノ又ハ製造、修理又ハ取纏中ノモノ

水素製造裝置

航空船格納庫及航空機用各種格納庫

航空船ハ交付ノ時迄獨逸國ノ費用ヲ以テ水素ヲ充タシ置クヘク水素製造裝置及航空船格納庫ハ前記諸國ノ裁量ニ依リ航空船交付ノ時迄之ヲ獨逸國ニ存置スルコトヲ得

航空機用發動機

座框及胴體

武裝(火砲、機關銃、輕機關銃、爆彈投下機、魚雷投下機、同調機、照準機)

彈藥藥筒、彈丸、塡實シ又ハ塡實セサル爆彈、貯藏爆藥及此等ノ製造ニ用キル原料)

航空機用器機

航空機用ノ無線電信機、無線電話機及寫眞機又ハ活動寫眞機

以上諸項ニ列記スル各品目ニ屬スル部品

右ノ材料ハ前記政府ノ特別ノ許可アルニ非サレハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

第四款

同盟國國際監督委員會

第二百三條

本條約中ノ陸軍海軍及航空條項ニシテ其ノ履行ニ付期限ヲ定メタルモノハ總テ主タル同盟及聯合國ノ之カ爲特ニ任命シタル同盟國國際監督委員會ノ監督ノ下ニ獨逸國之ヲ履行スヘシ

第二百四條

同盟國國際監督委員會ハ本條約ニ依リ獨逸國政府ノ費用ヲ以テ實行スヘキ引渡、破壞、爆破及廢棄ノ完了ヲ監視スルノ任務ヲ特ニ委託セラルヘシ

右委員會ハ主タル同盟及聯合國カ其ノ留保シタル、權利ニ基キテ爲シ又ハ陸軍海軍及航空條項ノ履行上ノ必要ニ基キテ爲サレタル決定ヲ獨逸國官憲ニ通告スヘシ

第二百五條

同盟國國際監督委員會ハ獨逸國中央政府ノ所在地ニ其ノ機關ヲ設置スルコトヲ得

右委員會ハ隨時獨逸國版圖內ノ各地ニ移動シ、小委員會ヲ派遣シ又ハ一名若ハ數名ノ委員ヲ出張セシムルノ權利ヲ有ス

第二百六條

獨逸國政府ハ同盟國國際監督委員會及其ノ委員ニ對シ其ノ任務ノ遂行上必要ナル一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ要ス

獨逸國政府ハ各同盟國國際監督委員會ニ權能アル一名ノ代表者ヲ附屬セシメ該委員會ヨリ獨逸國政府ニ宛テ發送スル通告ヲ受領シ且該委員會ノ爲必要ナル一切ノ情報又ハ文書ヲ供給又ハ蒐集セシムヘシ

獨逸國政府ハ每ニ其ノ費用ヲ以テ本條約ニ規定スル引渡竝破壞、防備撤廢、爆破及廢棄ノ作業ノ實行ニ必要ナル一切ノ勞力及材料ヲ提供スルコトヲ要ス

第二百七條

監督委員會ノ維持及費用竝其ノ事業上ノ費用ハ獨逸國之ヲ負擔スヘシ

第二百八條

同盟國國際陸軍監督委員會ハ陸軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、獨逸國ニ於テ存置ヲ承認セラレタル築城工事、堡壘及要塞ノ兵備竝兵器、彈藥及軍用材料ヲ製造スル工場又ハ製造場ノ位置及其ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ獨逸國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ有ス

同委員會ハ兵器、彈藥及軍用材料ノ引渡ヲ受ケ、該交付ノ行ハルヘキ地點ヲ指定

シ且本條約ニ依リ實行スヘキ破壞、爆破及廢棄ノ作業ヲ監視ス

獨逸國政府ハ同盟國國際陸軍監督委員會ニ於テ陸軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ一切ノ立法上及行政上ノ文書竝規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百九條

同盟國國際海軍監督委員會ハ海軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ造船所ニ就キテ建造中ノ艦艇ノ解體ヲ監視シ、一切ノ水上艦艇、潛水艦、救難船、船渠及管狀船渠ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞及解體ヲ監視スルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際海軍監督委員會ニ於テ海軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ艦艇ノ設計、其ノ兵裝ノ組織、砲熕、彈藥、魚雷、機雷、爆藥、無線電信機其ノ他一切ノ海軍軍用材料ニ關スル細目及模型竝一切ノ立法上若ハ行政上ノ文書又ハ規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百十條

同盟國國際航空監督委員會ハ航空條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ獨逸國版圖內ニ在ル航空用材料ノ目錄ヲ調製シ、飛行機、氣球及發動機ノ製造所竝航空機ニ使用シ得ヘキ兵器、彈藥及爆藥ノ製造場ヲ檢閱シ、一切ノ飛行場、格納庫、著陸場、集積場及補給廠ヲ臨檢シ、必要ノ場合ニハ材料ノ移動ヲ許シ且該材料ノ引渡ヲ受クルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際航空監督委員會ニ於テ航空條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル一切ノ情報及立法上行政上其ノ他ノ文書殊ニ獨逸國航空勤務總人員表、現存材料及製造中又ハ註文中ノ材料ノ目錄竝航空ニ關スル一切ノ設備、其ノ位置及一切ノ格納庫著陸場ニ關スル表ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第五款

一般規定

第二百十一條

獨逸國ノ法令ハ本條約實施後三月ノ期間滿了迄ニ之ヲ修正シテ本編ノ規定ニ適應セシメ且之ヲ維持スヘシ

本編ノ履行ニ關スル行政上其ノ他ノ措置ハ總テ前記期間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十二條

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約中第六條第七條第一項第二項第六項第七項第九條第二附屬書第一項第二項第五項及右休戰條約ニ追加セラルル千九百十九年四月四日ノ議定書ハ前記諸規定ニ反セサル限リ引續キ其ノ效力ヲ有ス

第二百十三條

本條約カ效力ヲ有スル限リ獨逸國ハ國際聯盟理事會カ所要ノ場合ニ其ノ過半數決ヲ以テ必要ト認メタル一切ノ調査ニ付各種ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第六編

俘虜及墳墓

第一款

俘虜

第二百十四條

俘虜及抑留人民ノ送還ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ著手シ且最迅速ニ之ヲ實行スヘシ

第二百十五條

獨逸俘虜及抑留獨逸人民ノ送還ハ第二百十四條ニ依リ同盟及聯合國ノ代表者竝獨逸國政府ノ代表者ヲ以テ組織スル委員會ニ於テ之ヲ實行スヘシ

各同盟及聯合國ニ在リテハ當該國代表者及獨逸國政府ノ代表委員ノミヲ以テ組織スル小委員會ニ於テ俘虜送還ノ實施ニ關スル細目ヲ定ムヘシ

第二百十六條

獨逸國官憲ハ前記俘虜及抑留人民ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ各自ノ鄉里ニ歸還セシムヘシ

前記俘虜及抑留人民中同盟及聯合國軍隊ノ占領地域內ニ戰爭前常住シタル者ハ亦之ヲ各自ノ鄉里ニ歸還セシムヘシ尤モ同盟及聯合國ノ占領軍官憲ノ許可及監督ヲ受クルモノトス

第二百十七條

獨逸國政府ハ送還ニ要スル出發以後ノ一切ノ費用ヲ負擔シ且第二百十五條ノ委員會ニ於テ必要ト認ムル海陸輸送方法及職員ヲ準備スヘシ

第二百十八條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否トヲ問ハス之ヲ送還スヘシ

前項ノ規定ハ千九百十九年五月一日以後ノ犯行ニ付罰ヲ受クル俘虜及抑留人民ニハ之ヲ適用セス

送還未了ノ間俘虜及抑留人民ハ總テ引續キ現行ノ規則殊ニ作業及紀律ニ關スル規則ノ適用ヲ受クヘシ

第二百十九條

紀律違反以外ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ尙之ヲ抑留スルコトヲ得

第二百二十條

獨逸國政府ハ送還セラルヘキ一切ノ者ニ對シ差別ヲ設クルコトナク之ヲ自國版圖內ニ入國セシムルコトヲ約ス

俘虜其ノ他ノ獨逸國民ニシテ送還セサル者ハ之ヲ送還セサルコトヲ得但シ同盟及聯合國政府ハ右ノ者ヲ送還シ、中立國ニ送致シ又ハ自國版圖內ノ居住ヲ之ニ許可スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國政府ハ右ノ者又ハ其ノ家族ニ對シ何等例外的取扱方法ヲ設ケス又從テ何等抑壓的若ハ煩瑣ナル措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第二百二十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國政府ヲシテ同國內ニ俘虜トシテ殘存スルコトアルヘキ自國民ニ關シ直ニ通告ヲ爲サシメ且直ニ之ヲ解放セシムルコトヲ以テ其ノ權內ニ在ル獨逸俘虜及獨逸國民送還ノ條件ト爲スノ權利ヲ留保ス

第二百二十二條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

一　失踪者調査委員ニ對シ一切ノ輸送手段ヲ提供シ收容所、監獄、病院其ノ他一切ノ場所ニ出入スルコトヲ許容シ及調査ヲ容易ナラシムヘキ公私一切ノ書類ヲ其ノ使用ニ供スルコト

二　同盟及聯合國國民ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ其ノ所在ヲ知リタル後之カ報告ヲ怠リタル獨逸國官吏又ハ人民ヲ處罰スルコト

第二百二十三條

獨逸國ハ同盟及聯合國國民ニ屬シ獨逸國官憲ノ押收シタル一切ノ物品、現金、證券及書類ヲ本條約實施後遲滯ナク返還スルコトヲ約ス

第二百二十四條

締約國ハ各自國版圖內ニ於ケル俘虜收容ニ因ル費用ノ償還ノ要求ヲ總テ相互的ニ拋棄ス

第二款　墳墓

第二百二十五條

同盟及聯合國政府竝獨逸國政府ハ各其ノ版圖内ニ埋葬セラレタル陸海軍軍人ノ墳墓ヲ尊重シ且保存スヘシ

前記諸國政府ハ同盟國又ハ聯合國政府ニ於テ右墳墓ノ識別、登錄若ハ管理ノ爲又ハ其ノ上ニ適當ナル記念碑ヲ建設スル爲任命シタル委員ヲ承認シ且其ノ職務執行ニ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

尙前記諸國政府ハ自國ノ法令上及公共衞生上差支ナキ限リ陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サムトスル要求ヲ實現スル爲一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第二百二十六條

各交戰國國民タル俘虜及抑留人民ニシテ拘束中死亡シタルモノノ墳墓ハ第二百二十五條ニ依リ適當ニ之ヲ保存スヘシ

同盟及聯合國政府竝獨逸國政府ハ相互ニ左記ノモノヲ提供スルコトヲ約ス

一　死亡者全表及識別上必要ナル一切ノ情報

二　識別セラレスシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ情報

第七編　制裁

第二百二十七條

同盟及聯合國ハ國際道義ニ反シ條約ノ神聖ヲ瀆シタル重大ノ犯行ニ付前獨逸皇帝「ホーヘンツォルレルン」家ノ維廉二世ヲ訴追ス

右被告審理ノ爲特別裁判所ヲ設置シ被告ニ對シ辯護權ニ必要ナル保障ヲ與フヘシ

該裁判所ハ五名ノ裁判官ヲ以テ之ヲ構成シ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國、伊太利國及日本國各一名ノ裁判官ヲ任命ス

右裁判所ハ國際間ノ約諾ニ基ク嚴正ナル義務ト國際道義ノ儼存トヲ立證セムカ爲國際政策ノ最高動機ノ命スル所ニ從ヒ判決スヘシ其ノ至當ト認ムル刑罰ヲ決定スルハ該裁判所ノ義務ナリトス

同盟及聯合國ハ審理ノ爲前皇帝ノ引渡ヲ和蘭國政府ニ要求スヘシ

第二百二十八條

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ヲ軍事裁判所ニ出廷セシムル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス上記ノ者有罪ト決シタルトキハ之ヲ法ノ定ムル刑罰ニ處スヘシ本規定ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ公訴ノ爲其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ニシテ其ノ氏名又ハ獨逸國官憲ノ下ニ於テ其ノ有シタル地位官職ヲ明示セラレタルモノハ總テ之ヲ同盟及聯合國又ハ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スヘシ

第二百二十九條

同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

同盟及聯合國中ノ二國以上ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該諸國ノ軍事裁判所ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

被告ハ何レノ場合ニ於テモ自己ノ辯護人ヲ指定スルノ權ヲ有ス

第二百三十條

獨逸國政府ハ犯罪行爲ノ知悉、犯罪者ノ發見及責任ノ適正ナル量定ニ必要ト認メラルル一切ノ文書及資料ノ提供ヲ約ス

第八編

賠償

第一款

一般規定

第二百三十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國及其ノ同盟國ノ攻撃ニ因リテ強ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民ノ被リタル一切ノ損失及損害ニ付テハ責任ノ獨逸國及其ノ同盟國ニ在ルコトヲ斷定シ獨逸國ハ之ヲ承認ス

第二百三十二條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國ノ資源カ本條約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考量シ其ノ右損失及損害ノ全部ニ對シ完全ナル賠償ヲ爲スニ充分ナラサルコトヲ認ム

然レトモ同盟及聯合國政府ハ其ノ各國ト獨逸國トノ交戰期間內其ノ陸上海上及空中ノ攻撃ニ因リ同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財產ニ對シ加ヘラレタル一切ノ損害槪言スレハ本款第一附屬書ニ掲クル一切ノ損害ニ付補償ヲ要求シ

獨逸國ハ之カ補償ヲ爲スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ本編中別ニ規定スル損害ヲ補償スル外ニ白耳義國ノ完全ナル回復ニ關シ其ノ既ニ與ヘタル誓約ニ遵ヒ白耳義國カ千九百十八年十一月十一日前ニ於テ同盟及聯合國政府ヨリ借入レタル一切ノ金額及之ニ對スル年五分ノ利息ヲ千八百三十九年ノ條約ニ違反シタル結果トシテ償還スヘキコトヲ約ス右金額ハ賠償委員會之ヲ決定スヘク獨逸國政府ハ該決定後直ニ千九百二十六年五月一日又ハ其ノ選擇ニ從ヒ千九百二十六年以前ノ年ノ五月一日「瓲」金貨ヲ以テ支拂フヘキ右金額相當ノ無記名債券ヲ特ニ發行スルコトヲ約ス上記規定ニ依ルノ外該債券ノ樣式ハ賠償委員會之ヲ定ム該債券ハ之ヲ賠償委員會ニ引渡スヘク同委員會ハ白耳義國ニ代リテ之ヲ受領シ且受領ヲ通牒スルノ權限ヲ有スル所ニ依ル

第二百三十三條

獨逸國ノ補償スヘキ前記損害ノ總額ハ賠償委員會ト稱スル同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ノ組織及權能ハ本款及本款第二乃至第七附屬書ノ定ムル所ニ依ル

右委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ」

前記損害額ニ關スル委員會ノ查定ハ獨逸國政府ノ債務ノ範圍ヲ示スモノトシテ千九百二十一年五月一日前ニ之ヲ確定シ且獨逸國政府ニ通告スヘシ

委員會ハ同時ニ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間內ニ獨逸國カ右債務全部ヲ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ調製スヘシ但シ獨逸國カ右期間內ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リ其ノ決濟ヲ後年ニ延期シ又ハ同盟及聯合國政府カ本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得

第二百三十四條

賠償委員會ハ千九百二十一年五月一日以後隨時獨逸國ノ資源及能力ヲ審查シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國ノ代表者ニ與ヘタル後第二百三十三條ニ依リ定ムル支拂時期ヲ延長シ又ハ其ノ方法ヲ變更スルノ裁量ヲ有ス但シ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ特定ノ承認アル場合ヲ除クノ外債務ノ何レノ部分ヲモ免除スルコトヲ得ス

第二百三十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲシテ其ノ請求額ノ確定ニ先ヶ速ニ其ノ產業及經濟生活ノ回復ニ著手スルコトヲ得シムル爲賠償委員會ノ定ムル割賦及方法ニ從ヒ(金、貨物、船舶、有價證券其ノ他ヲ以テ)千九百十九年及千九百二十年中竝千九百二十一年四月末日迄ニ二百億「瓲」金貨ニ相當スル額ヲ支拂フヘシ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約以後ニ於ケル占領軍ノ費用ハ右金額中ヨリ先ツ之ヲ支辨スヘシ主タル同盟及聯合國政府ニ於テ獨逸國ヲシテ其ノ賠償義務ヲ履行セシムルカ爲必要ナリト認ムタル糧食及原料ノ供給ニ對シテハ右政府ノ承認ヲ經

テ該金額中ヨリ亦之カ支辨ヲ爲スコトヲ得殘額ハ賠償義務額ノ淸算ニ之ヲ充當スヘシ獨逸國ハ右ノ外尙本款第二附屬書十二ノ(ハ)號ニ揭クル債券ヲ供託スヘシ

第二百三十六條

獨逸國ハ尙商船、物質的回復、石炭及其ノ製品竝染料其ノ他ノ化學製品ニ付各第三乃至第六附屬書ニ依リ直接其ノ經濟資源ヲ賠償ニ充ツルコトニ同意ス但シ右各附屬書ニ依リ獨逸國ノ讓渡シタル財產及履行シタル役務ノ價額ハ常ニ上記各附屬書ニ揭クル方法ヲ以テ之ヲ評價シ前各條ニ依ル債務ノ淸算ニ際シ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二百三十七條

前記請求ニ應シ獨逸國ノ支拂ヒタル累次ノ割賦(前記ノ額ヲ含ム)ハ同盟及聯合國政府ニ於テ一般的衡平及各國政府ノ權利ヲ基礎トシテ豫メ決定シタル割合ヲ以テ同政府間ニ之ヲ分配スヘシ

右分配ニ付テハ第二百四十三條及第三乃至第七附屬書ニ依リ讓渡シタル財產及履行シタル役務ノ價額ハ之ヲ當該年度ニ於ケル現金支拂ト同樣ニ計算スヘシ

第二百三十八條

前記支拂ノ外獨逸國ハ尙賠償委員會ノ定ムル手續ニ從ヒ其ノ奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル現金ハ現金ヲ以テ還付スヘク又奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル動物、各種物件及有價證券ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土內ニ於テ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ還付スルコトヲ要ス

右手續ノ決定ニ至ル迄還付ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約、其ノ更新取極及同附屬議定書ノ規定ニ依リ之ヲ繼續スヘシ

第二百三十九條

獨逸國政府ハ第二百三十八條ニ定ムル還付ヲ直ニ實行シ且第二百三十三條乃至第二百三十六條ニ定ムル支拂及引渡ヲ實行スヘキコトヲ約ス

第二百四十條

獨逸國政府ハ第二百三十三條ノ委員會ヲ第二附屬書ニ依リ同盟及聯合國政府ノ組織スヘキ委員會トシテ承認シ且該委員會カ本條約ニ依リ付與セラレタル權能及權限ヲ有シ且之ヲ行使スルコトニ確實ニ同意ス

獨逸國政府ハ金融ノ狀態及作用、獨逸國及其ノ國民ノ財產及生產力竝其ノ原料及製造品ノ貯藏額及當時ノ產額ニ關シ賠償委員會ノ要求スヘキ一切ノ情報其ノ他第一附屬書ニ規定スル獨逸國賠償債務ノ査定上該委員會ノ必要ト認ムヘキ軍事行動ニ關スル情報ヲ該委員會ニ提供スヘシ

獨逸國政府ハ其ノ友好國ノ正式ニ任命シタル外交官カ獨逸國ニ於テ享有スル同一ノ權利及免除ヲ賠償委員會ノ委員及其ノ權限アル吏員ニ許與スヘシ

獨逸國ハ尙委員會及其ノ使用スル職員ノ俸給及費用ヲ支辨スルコトニ同意ス

第二百四十一條

獨逸國ハ此等諸規定ノ完全ナル實行ニ必要ナル法律命令ヲ制定シ、公布シ及施行スルコトヲ約ス

第二百四十二條

本編ノ規定ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ニ掲クル財産、權利及利益竝其ノ清算殘高ニ之ヲ適用セス但シ第二百四十三條第一項(イ)號ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十三條

左ニ掲クルモノハ獨逸國ノ賠償債務ニ關シ其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

(イ) 第三編(歐洲政治條項)第五款(「アルザス、ロレーヌ」)竝第十編(經濟條項)第三款及第四款ノ規定ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額

(ロ) 第三編(歐洲政治條項)第四款(「ザール」河流域)、第九編(財政條項)及第十二編(港、水路及鐵道)ニ依ル讓渡ニ關シ獨逸國ニ支拂フヘキ額

(ハ) 右ノ外本條約ニ依リ財産、權利、利權其ノ他ノ利益ヲ讓渡シタル結果賠償委員會ニ於テ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシト決定シタル額

本編第二百三十八條ノ規定ニ依リ還付シタル財産ハ如何ナル場合ニ於テモ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナシ

第二百四十四條

本條約ニ特別ノ規定ヲ設ケサル獨逸海底電信線ノ讓渡ハ本款第七附屬書ノ規定ニ依ル

第一附屬書

補償ハ第二百三十二條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付之ヲ獨逸國ニ請求スルコトヲ得

一 戰爭ノ行爲(陸上、海上又ハ空中ノ砲撃其ノ他ノ攻撃、其ノ一切ノ直接ノ結果及場所ノ如何ヲ問ハス交戰國ノ雙方ノ行ヘル軍事行動ノ一切ノ直接ノ結果ヲ含ム)ニ因ル普通人民ノ傷害又ハ死亡ノ爲該負傷者及生存被扶養者ノ受クル損害

二 場所ノ如何ヲ問ハス獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、兇暴又ハ虐待行爲(監禁、追放、抑留、退去命令、海上遺棄又ハ強制勞働ノ結果タル生命又ハ健康ノ危害ヲ含ム)ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

三 獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ該諸國カ行ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル一切ノ行爲ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

四 俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害

五　同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ不具癈疾ト爲リテ戰爭ノ犧牲ト爲リタル陸海軍軍人(空軍軍人ヲ含ム)及其ノ被扶養者ニ對スル一切ノ恩給金及恩給金ノ性質ヲ有スル一切ノ補償金但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ右金額ハ本條約實施ノ日ニ於ケル佛蘭西國現行ノ率ヲ基礎トシ同時期ニ於テ恩給金及補償金ヲ一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

六　俘虜竝其ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶助費

七　動員セラレタル者又ハ軍務ニ服シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ給與額ハ戰時狀態ニ在リタル各曆年毎ニ當該年ニ於テ佛蘭西國ニ行ハレタル此ノ種支拂ノ平均率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八　獨逸國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ナクシテ勞働ヲ强制シタル爲普通人民ノ受ケタル損害

九　陸海軍ノ工作物又ハ材料ヲ除クノ外同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財產ニシテ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス陸上、海上又ハ空中ニ於ケル獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ搬去、差押、毀損又ハ破壞セラレタルモノニ關スル損害竝敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十　獨逸國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル强制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二附屬書

一

第二百三十三條ノ委員會ニハ「賠償委員會」ノ名稱ヲ附スヘク以下之ヲ「委員會」ト稱ス

二

本委員會ノ委員ハ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國之ヲ任命スヘシ右諸國ハ各委員一名副委員一名ヲ任命スヘシ副委員ハ委員ノ病氣又ハ已ムヲ得サル闕席ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘク其ノ他ノ場合ニ於テハ單ニ會議ニ出席スルノ權利ヲ有シ議事ニ參與スルコトヲ得ス

上記諸國ニシテ其ノ委員カ委員會ノ議事ニ參與シ且表決ノ數ニ加ハルノ權利ヲ有スルモノハ如何ナル場合ニ於テモ五國ヲ超ユルコトナシ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國及伊太利國ノ委員ハ一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス白耳義國ノ委員ハ以下ノ場合ヲ除クノ外一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス日本國ノ委員ハ海上ニ於ケル損害ニ關スル問題及第九編(財政條項)第二百六十條ニ基キ發生シ日本國ノ利害ニ關係アル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有